COMPACT TYPE PITCHING MACHINE

コンパクトカーブマシーン

取扱説明書　■ご使用前に必ずお読みください。

このたびは、弊社のピッチングマシーンをお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。

- 事故や、マシーンの故障を防ぐために、マシーンの使用前に必ず、この取扱説明書を注意深く読み、よく理解した上で使用してください。
- この取扱説明書は将来いつでも使用できるように大切に保管してください。

安全上のご注意 ⚠ 必ず守ってください

※本書はマシーン使用者が、**いつでも読めるところに必ず保管**してください。
※ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、**正しくお使いください。**
※ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、**あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのもの**です。
※このマシーンは野球の練習以外には使用しないでください。
※絵表示と意味は次のようになっています。
※図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。

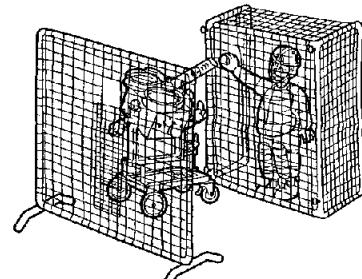
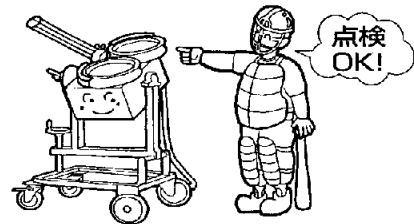
取り扱いを誤った場合、**「死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される」**内容を示しています。

取り扱いを誤った場合、**「死亡または重傷を負う可能性が想定される」**内容を示しています。

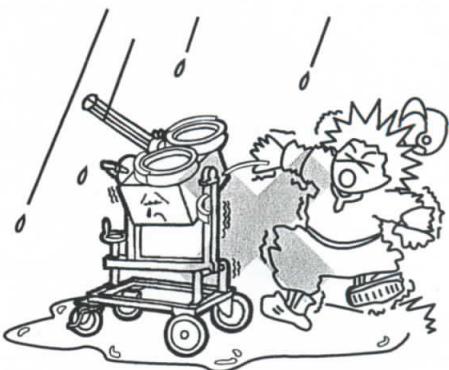
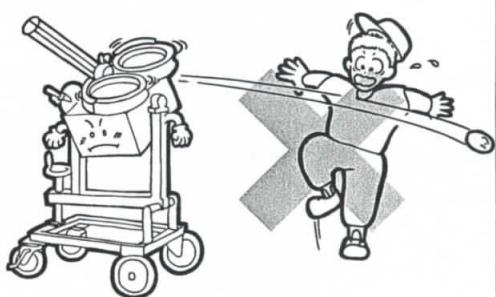
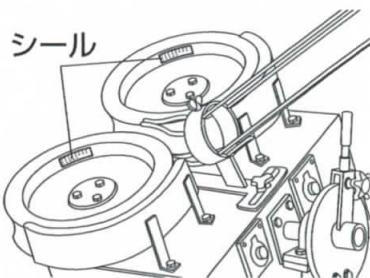
取り扱いを誤った場合、**「傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される」**内容を示しています。

禁止の行為であることを告げるものです。

感電の恐れがあることを告げるものです。

行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

守っていただくべき義務行為を示しています。

発火の可能性のあることを告げるものです。

⚠ 危　険

- マシーンの取り扱いは、マシーンの危険性をこの説明書でよく理解された方が行ってください。
- 事故を防ぐ為に**マシーン使用前にはマシーン本体（ホイール・シュート<ボール投入口>・リード線など）に異常がないか点検してください。**
  特にホイールは高速回転しますのでハガレ・キズ・裂け目などの有無やホイールのアルミ部にヒビ・ブレがないか確認してください。

- **マシーンを使用する時は、マシーン前ネット・マシーン投球者用保護ネット（オペレーター用ネット）を設置し、マシーンを操作する人は安全の為に必ずヘルメット・マスク・プロテクター・レガーズなどの防具を着用してください。**
  複数の打席で、同時にバッティング練習するときには、他打席の打球にも十分注意してください。

- **破れたネットは打球が突き抜けてきて危険ですから、使用前に異常箇所が無いか確認してください。**

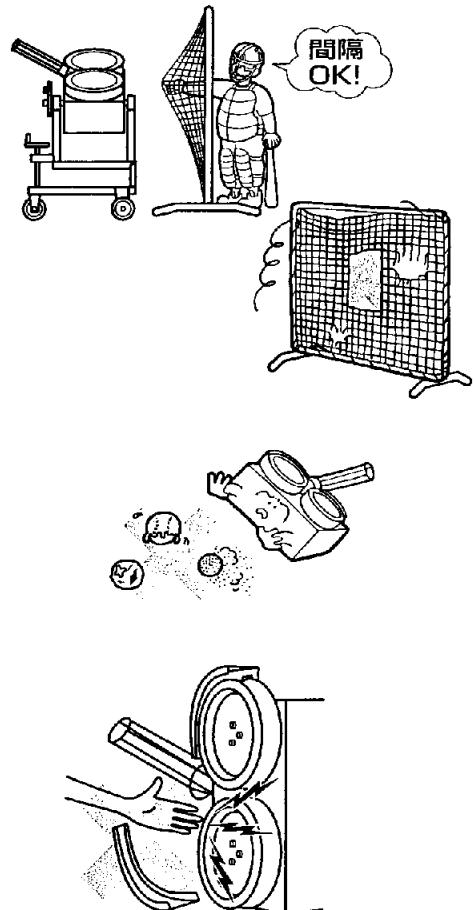
使用時の注意

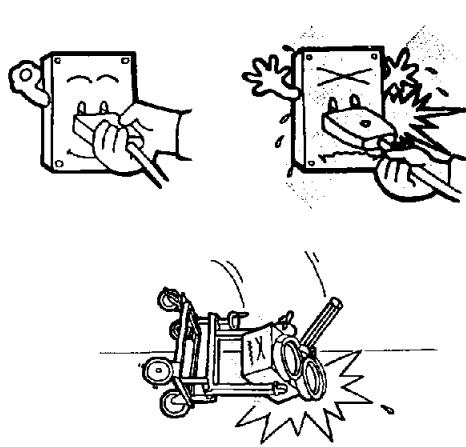
⚠ 危険

- マシーン使用中にマシーンの振動が大きくなったり、異音がした場合は、直ちにマシーンの使用を中止し、直ちにコンセントを抜いてください。
- ホイールの使用期限は３年です。ご購入日より**３年経過したホイールは必ず交換してください。**ご購入日は、ホイールの内側に貼付しているシールに表記しておりますのでご確認ください。ホイールは保管状況・使用頻度などにより寿命は変化いたします。
- ホイールのゴム・ウレタンは日々劣化していきます。その為アルミ部とゴム・ウレタンとの接着強度も落ちていきます。古くなり劣化したホイール（ヒビ割れ、弾力性が劣るなどの症状が見うけられるホイール）は高速回転させると遠心力によりゴム・ウレタンが欠けて飛び大変危険ですので絶対に使用しないでください。

- マシーンは屋内で湿気やほこりの少ない場所に保管し、石灰と同じ場所には保管しないでください。石灰は空気中の水分を集めると同時に強いアルカリ性でホイールの表面を溶かし寿命を縮める大きな原因になります。またマシーンには、石灰の付いたボールは、絶対に使用しないでください。ホイールに石灰が付着し寿命を縮める原因となります。ホイールは保管状況・使用頻度により寿命は変化いたします。
- 球速やコントロールの調整時は大変危険ですからキャッチャー、バッターは定位置に付かないでください。

- マシーン運転中は、危険ですから絶対にマシーンの前を横切らないようにしてください。
- ボール投入時には、必ず声を出してバッターに合図をしてください。
- 回転しているホイールには、絶対に触れないでください。
- 雨の日は、絶対にマシーンやコードリールを使用しないでください。また、マシーンやコードリールは水などで濡らさないように注意してください。
濡れた手で電源プラグに触ると感電の危険性があります。

- マシーンに表示されているボール以外は使用しないでください。ボールのスピードが変わり、コントロールが定まらなかったり、ボールの種類によってはホイールの損傷にもつながり大変危険です。

安全上のご注意⚠必ず守ってください

⚠警　告

マシーンの前には、マシーン前ネットのネット部をマシーン側に軽く押して、マシーンに接触しない間隔をあけて設置し動かないように固定してください。特に古くなりたるんだネットやロープが切れてぶらさがっているネットは、修復して使用してください。ホイール（回転物）に巻き込む恐れがあり大変危険です。

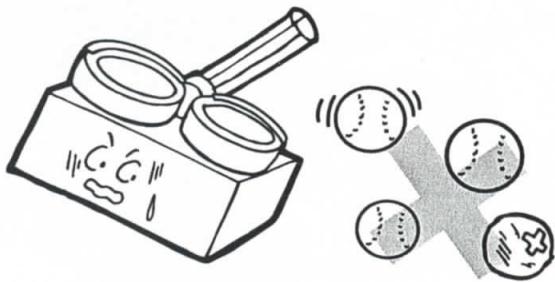
アースを接続しないと感電する恐れがありますので、アースは必ず接続して使用してください。

マシーン使用中は、マシーンの周辺及び使用範囲（ボールが届くと思われる範囲）には、関係者以外近づけないようにしてください。

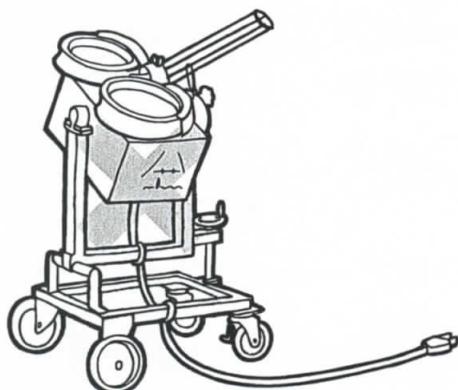
革や糸が切れているボール、変形しているボールなど、傷みのひどいボールは使用しないでください。ボールがスリップして予想外の方向に飛ぶ恐れがあり大変危険です。（型式 VU）

擦り減ってきてすべりやすくなったボールは変化球での使用時にはボールの変化が少なくなります。濡れたボールは、ホイールとボールがスリップして予想外の方向に飛ぶ恐れがあり大変危険です。（型式 VR）

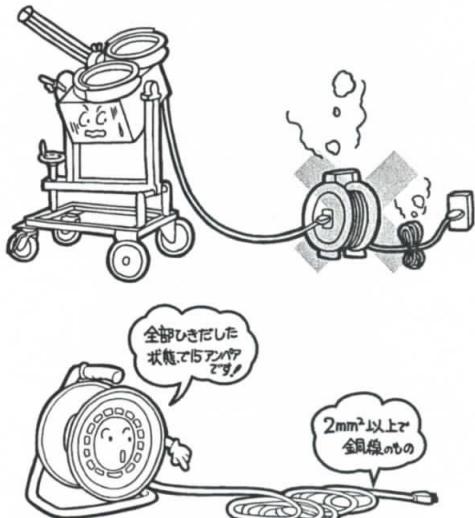
マシーンは絶対に分解しないでください。特にホイールカバーを外しての使用は大変危険です。

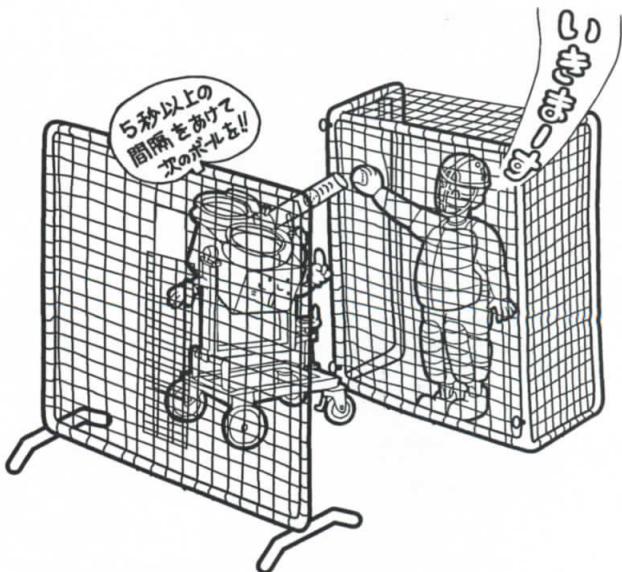
⚠注　意

差し込みプラグは、必ず根元を持って抜いてください。コードを引っ張ると、断線やショートの原因になり、大変危険です。

スイッチを切ってもホイール（回転物）はすぐに止まりませんので、完全にホイール（回転物）が静止するまで触れないでください。

マシーンの移動はスイッチを切りホイールの回転が完全に静止したのを確認してから大人２人以上で転倒しないように注意して移動させてください。
※グランドはぬかるんだりして転倒につながる可能性が多くありますので注意してください。

使用時の注意

⚠ 注 意

硬さの一定しないボール・大きさの異なるボール・傷みのひどいボール、また、これらをまぜて使用すると、コントロールが悪くなります。更に、ホイールの損傷の原因にもなりますので、注意してください。

マシーン本体を、垂直方向、水平方向に回転させる場合、リード線をマシーンにからませないようにしてください。

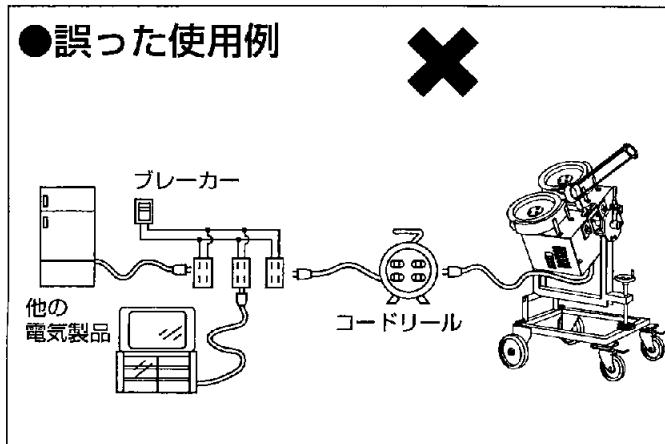
シュート筒を持ってマシーンを移動させないでください。ボールをはさむ位置がずれ、コントロールが悪くなります。
また、破損・故障の原因になります。

コードリールのコードは全部引き出して使用してください。
巻いたまま使用すると、コードが発熱し、被覆が溶けてショートすることがあり大変危険です。（燃える事もあります。）

コンセント仕様：2P・15A・125V
電　線　仕　様：VCT2.0mm²×2

スピード調整直後、また、5秒間隔以下ではボールを投入しないでください。コントロールが悪くなる恐れがあります。
必ず5秒以上の間隔をあけてください。

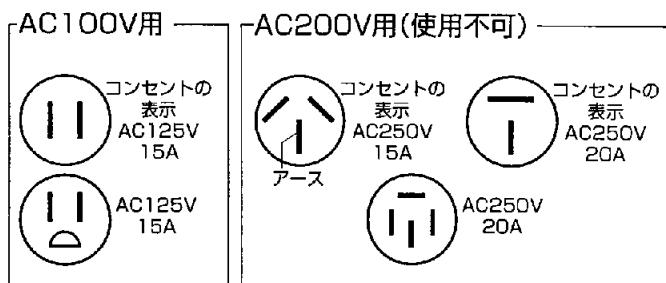
マシーンの特長

- ホイール式により、コントロールが良く、ボールにスピンを強制的にかけるため、のびのある生きたボールまた、変化の少ない投球から、変化の大きい投球（ストレートは勿論、カーブ・シュート・フォーク及びナックルなど）まで自由に設定できます。
- 速度調整ダイヤルに、バーニアダイヤルを採用していますので、微調整が簡単に行えます。
- 左投手の投球・右投手の投球、両方の使い分けができます。
- 硬式用は、ウレタンホイール使用のため非常にコントロールがよく、ボールの傷みも少なくなりました。
- 軟式用は、特殊成型ゴムホイール使用で、ホイールとボールのスリップが減少し、従来のマシーンに比べ大変コントロールが良くなり、ボールの減りも少なくなりました。

マシーンが到着したら

- 到着したマシーンが、注文された商品であることを確認してください。
〈品番・使用電圧・使用球など〉

(!) 到着したマシーンが、運送途中、その他のトラブルなどで損傷、破損している箇所がないか慎重に点検・確認してください。万一、損傷・破損が認められた場合は、運送会社もしくは、購入先の販売店まで至急ご連絡ください。この場合は、マシーンを絶対に使用しないでください。事故や破損部の拡大の原因になります。また、運送保険の適用を受けることができなくなります。

- マシーンの到着より点検、確認、連絡まで5日以上経過していますと、運送途中のトラブルが原因の修理に対して運送保険の適用が受けられなくなり、有料になる場合がありますので予めご了承ください。

もくじ

マシーン使用前に確認していただきたいこと

- マシーンに使用するコンセントの形状を確認してください。
- マシーンに使用するコンセントに流れている電圧をテスターで実測してください。
- 使用するコンセントを変更する場合も同様に実測してください。
- この商品は**AC100V専用**です。コントローラーボックスが破損しますので**AC200Vでは絶対に使用しないでください。**
- マシーンに使用するコンセントは、**単独回路（20A）**で使用してください。
  下図に示すような状態で使用した場合は、ブレーカーが落ちることがあります。

【代表例】

AC100V用

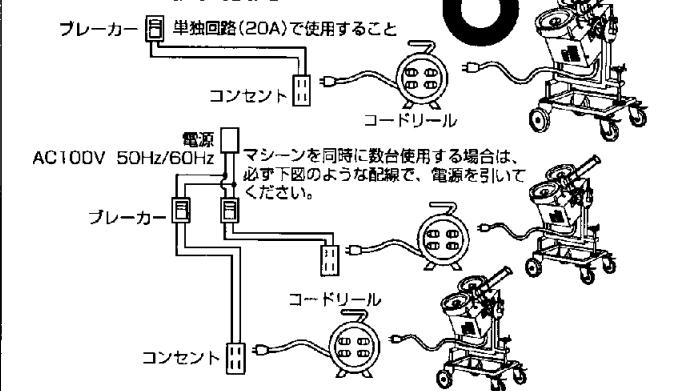
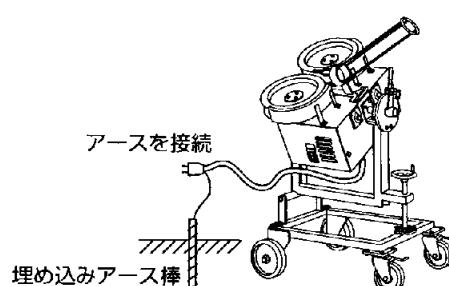
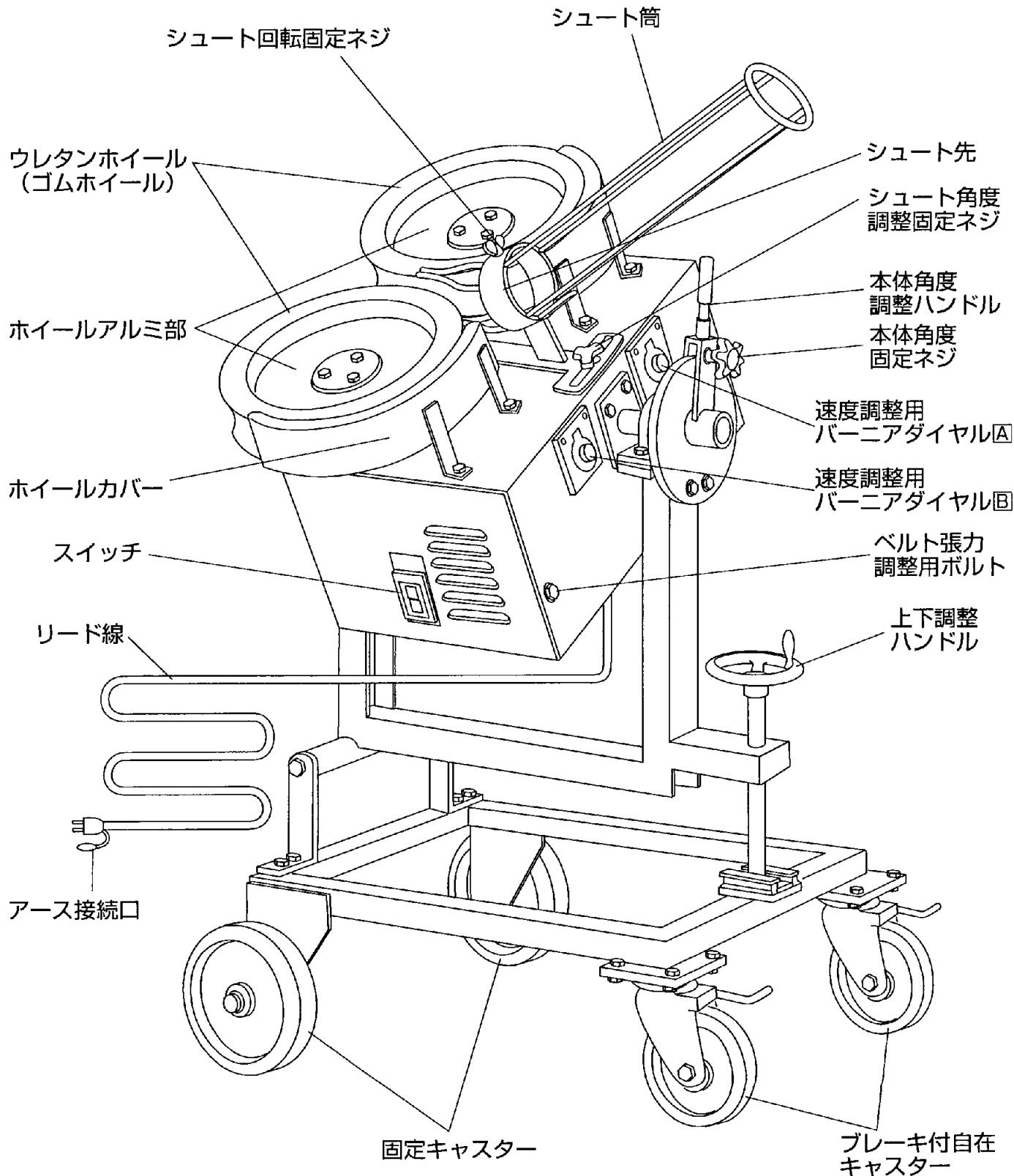
- コンセントの表示 AC125V 15A
- AC125V 15A

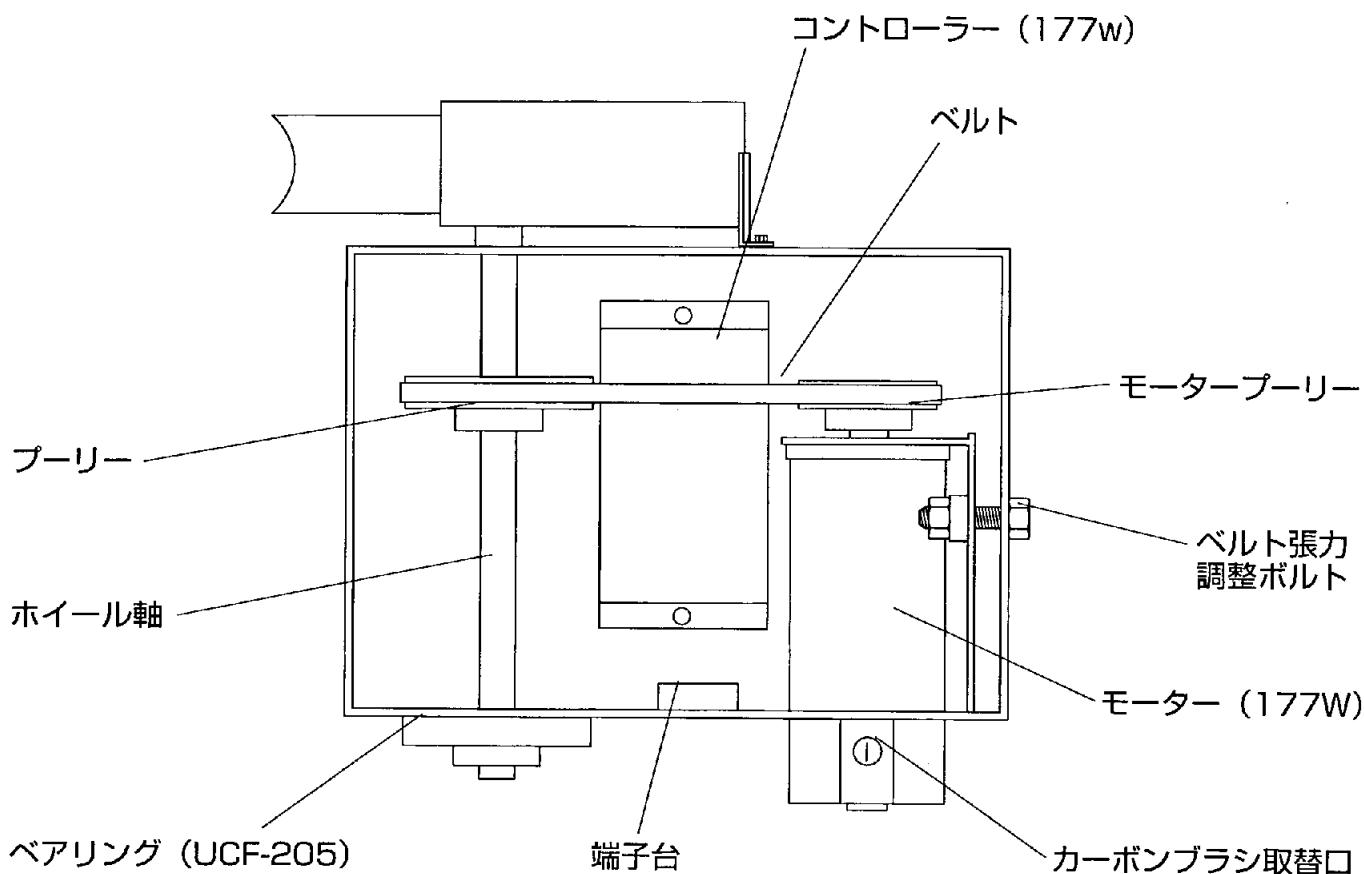
AC200V用（使用不可）

- コンセントの表示 AC250V 15A（アース）
- コンセントの表示 AC250V 20A
- AC250V 20A

コンセントの表示又は型式により電圧を自己判断するのは危険です。必ずしもコンセントの形状に合った電圧がきているとは限りません。テスターにより、電圧を実測してください。

●誤った使用例 ✖

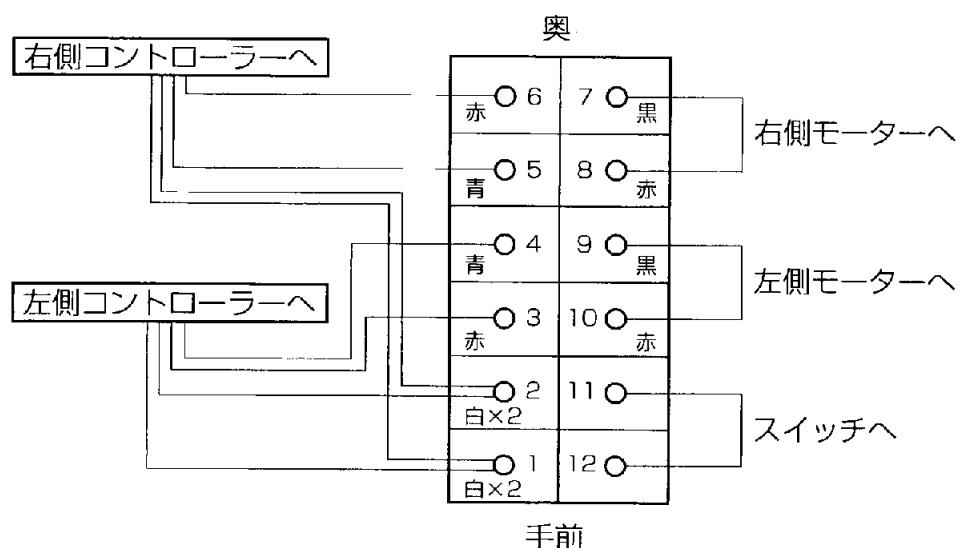
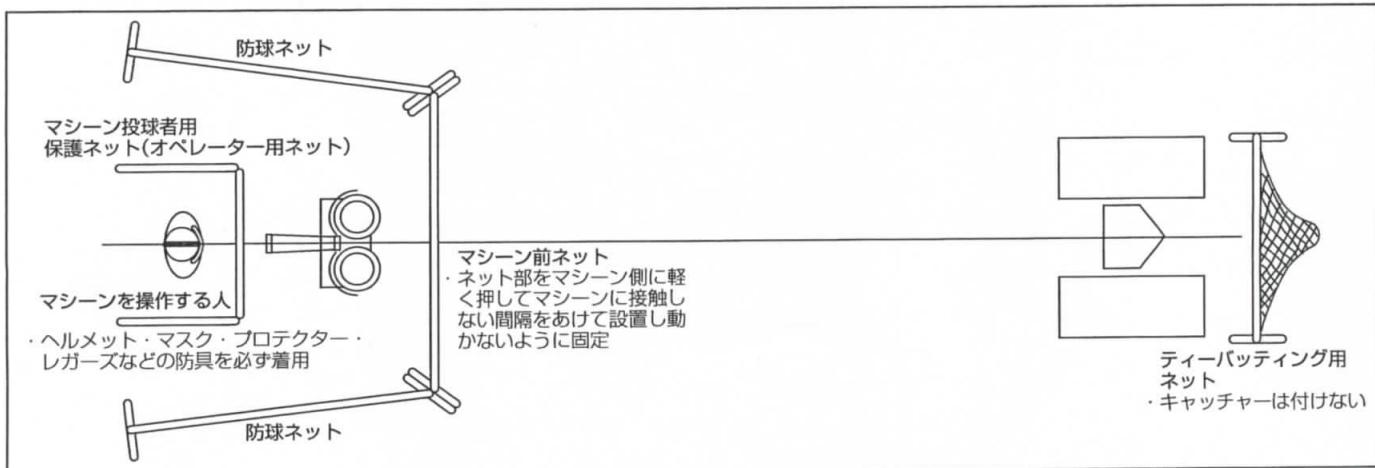
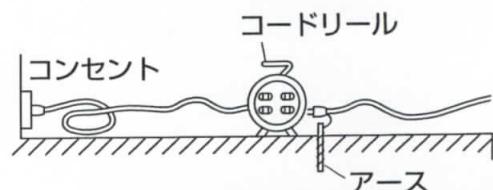
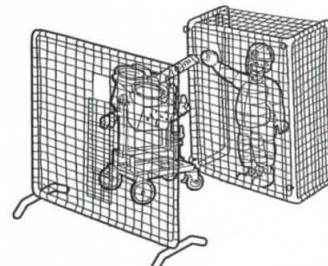
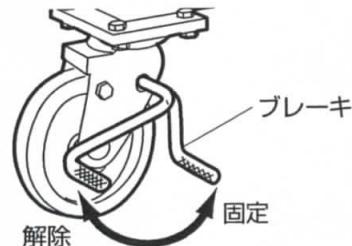
●正しい使用例 〇

- マシーンに使用するコンセントのブレーカーは**20A（アンペア）**を使用してください。
- マシーン使用前には、必ず、リード線に傷などが入っていないことを確認してください。万一、被覆に傷があり、**銅線が見えている場合は、絶縁テープで銅線を覆ってから使用**してください。
- コードリールを使用する際、マシーンからコンセントまで距離が短い場合でも、**コードは必ず全部引き出し**てください。
- コードリールの、全巻時の**最大定格電流は7A**です。全て引き出したときに、**定格電流は15A**になります。（100V・50m・15A用）
- 電源に発電機を利用する場合は、**1.8kw以上**の商品を使用してください。

注）20A（アンペア）以下のブレーカーを使用すると、マシーンの電源スイッチを入れ、速度を上げる途中でブレーカーが落ちる場合があります。（容量不足）

注）コードリールは全巻時7Aを超過した場合コードが発熱し、被覆が溶けてショートして燃えることがあり、大変危険です。

●コードリールはプラグ1つで15A以下か、または4つのプラグ合計が15A以下で使用してください。

各部の名称

シュート筒
シュート回転固定ネジ
ウレタンホイール
（ゴムホイール）
シュート先
シュート角度
調整固定ネジ
本体角度
調整ハンドル
本体角度
固定ネジ
ホイールアルミ部
速度調整用
バーニアダイヤルⒶ
ホイールカバー
速度調整用
バーニアダイヤルⒷ
スイッチ
ベルト張力
調整用ボルト
リード線
上下調整
ハンドル
アース接続口
固定キャスター
ブレーキ付自在
キャスター

各部の名称

コントローラー（177w）
ベルト
モータープーリー
プーリー
ベルト張力
調整ボルト
ホイール軸
モーター（177W）
ベアリング（UCF-205）
端子台
カーボンブラシ取替口

端子台の配線図

※1，2，11,12は交流電流（AC）
→1，2と11，12は、線を入れ替えてもO.K.
その他は直流電流（DC）
※1，2は、それぞれ左右コントローラーの線を1本ずつつないでください。
※7，8と9，10は、線を入れ替えるとホイルが逆転します。
（3，4と5，6も同様）

マシーンの使用手順

- 「安全上のご注意」（Ｐ１～4）をよく読んで使用してください。
- 電源に発電機をご使用の場合は、**発電機の取扱説明書をお読みの上操作**してください。
- マシーンとホームベースの関係、及びマシーン前ネット・ティーバッティング（トスバッティング）用ネット・マシーン投球者用保護ネット（オペレーター用ネット）を下図の要領で配置してください。（**安全を考え配置**してください）また、投球者はヘルメット・マスク・プロテクター・レガーズなどの防具を必ず着用してください。

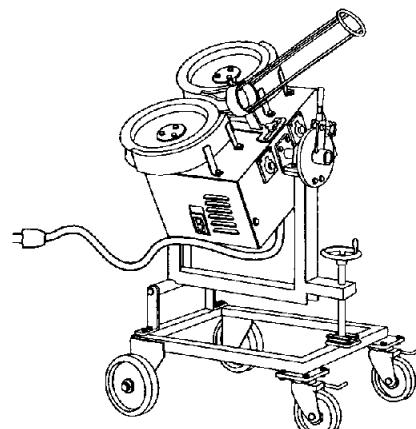
1 マシーンを使用位置に移動させマシーンを設置し、ブレーキ付き自在キャスターのブレーキで固定します。

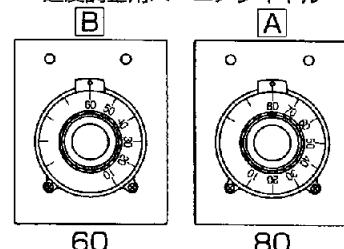
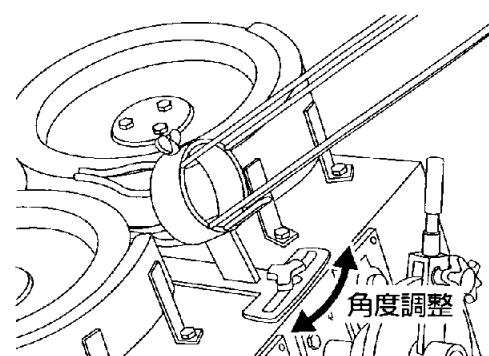
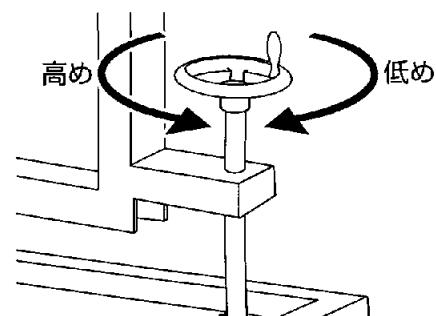
2 マシーン前ネット・マシーン投球者用保護ネット（オペレーター用ネット）を設置し、マシーンを使用する人は安全の為に必ずヘルメット・マスク・プロテクター・レガーズなどの防具を使用してください。

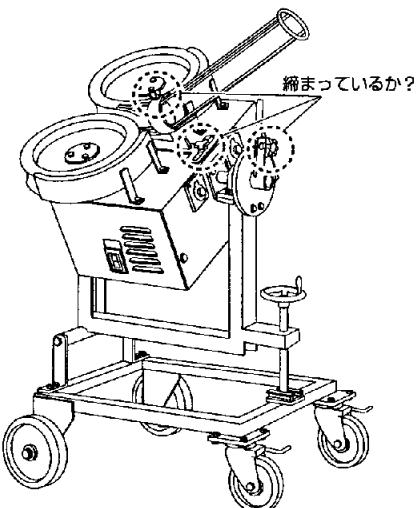
3 マシーン本体や使用するネットに異常箇所がないか点検してください。特にホイールは高速回転しますので、ハガレ・キズ・裂け目の有無やアルミ部にヒビ割れ・ブレがないか確認してください。

4 コードリールを全て引き出し、マシーンの横で打球の当たらないところに設置します。

5 スイッチがOFFになっていることを確認し、アースを接地した後、プラグをコンセントに接続します。

6 速度調整用バーニアダイヤルⒶ・Ⓑが０になっていることを確認し、ホイールなどの回転部に接触物がないか確認の上、スイッチをONにします。

マシーンの使用手順

> ⚠ 速度調整用バーニアダイヤルⒶ・Ⓑが０以外の位置になったままの状態でスイッチを入れるとブレーカーが落ちる場合があります。また、モーターやコントローラーの故障や寿命を縮める原因になります。

⑦ 速度調整用バーニアダイヤルⒶ・Ⓑをゆっくり回して、マシーンの振動が大きかったり、異音がしていないか確認してください。
※マシーン使用中に振動が大きくなったり、異音がした場合は直ちにマシーンの使用を中止してください。

⑧ 使用する球種にあわせてマシーン本体の傾きを固定してください。球種は「色々なボールの出し方」P.15～18を参考にしてください。

⑨ 速度調整用バーニアダイヤルⒶ・Ⓑを使用する球速にあわせて設定してください。球速は「色々なボールの出し方」P.15～18を参考にしてください。

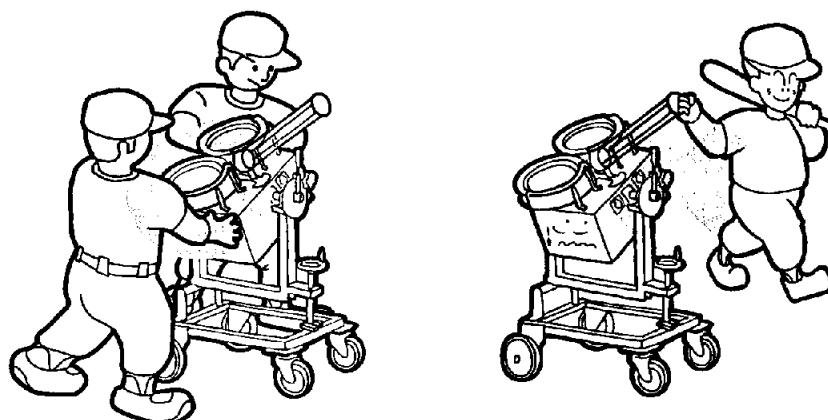
⑩ シュート角度調整固定ネジを緩め、シュートを本体の傾きにあわせて設定します。シュートの角度は「色々なボールの出し方」P.15～18を参考にしてください。

⑪ 設定が出来ましたら、マシーン付近やバッターボックスに人がいないことを確認の上、必ず声をだし合図をしながら試投してください。

⑫ コントロールの確認をしていきます。
ボールが上下にずれている場合は上下調整ハンドルで調整します。左に回せばボールは高めに投球され、右に回せばボールは低めに投球されます。

マシーンの使用手順

⑬ 調整が終われば本体角度固定ネジ・シュート角度固定ネジ・シュート回転固定ネジがきっちり締まっているか確認してください。

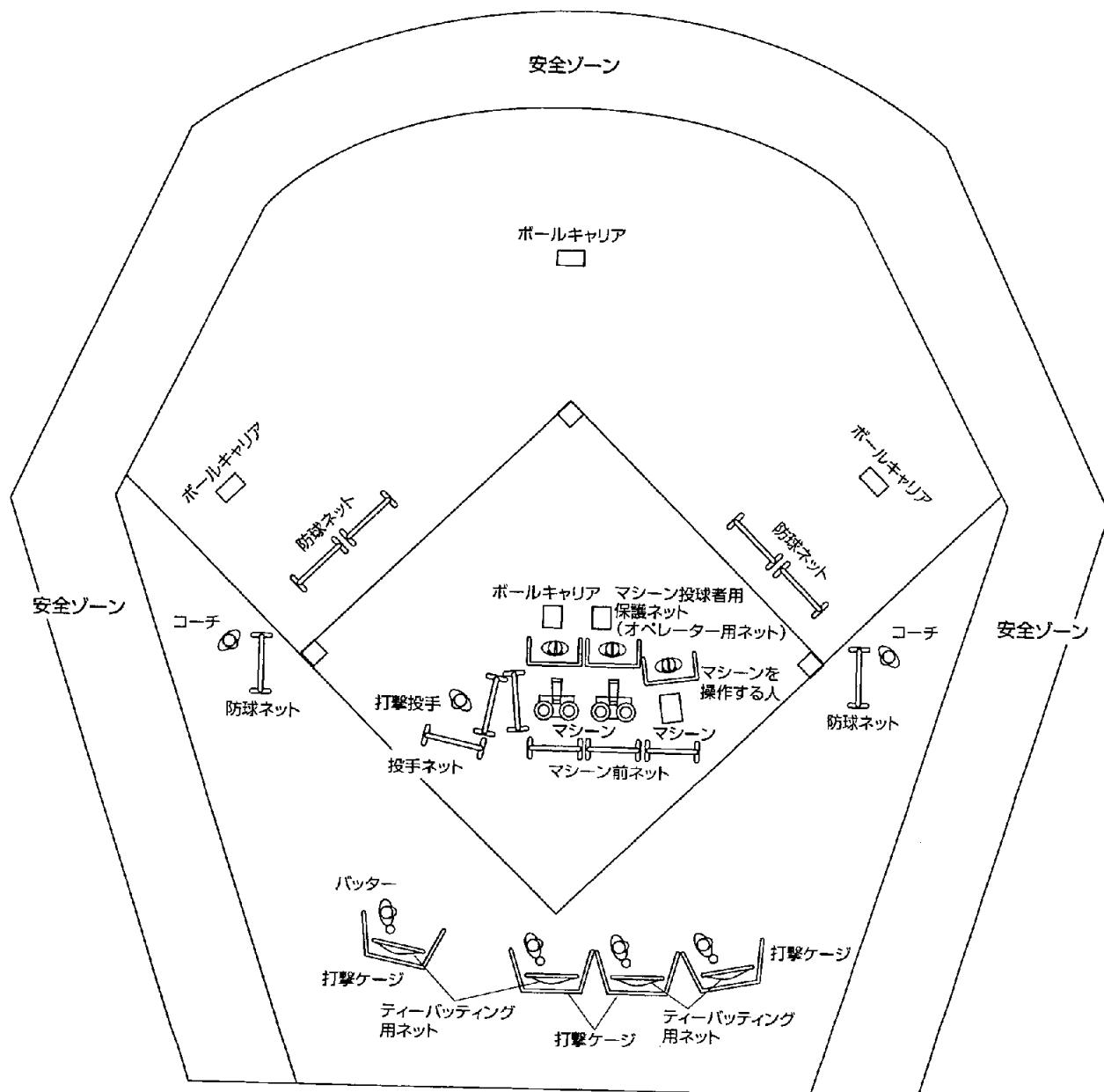
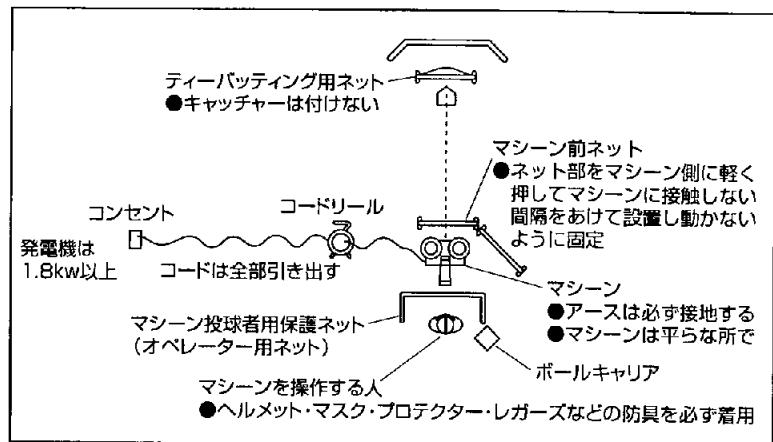
⑭ 試投が終わりましたら、再度、安全に注意をして使用してください。

※速度調整用バーニアダイヤルⒶ・Ⓑを再調整したあとは必ず試投してコントロールの確認をしてください。
試投の際は必ずバッター・キャッチャーはバッターボックス付近に近づかないでください。

マシーンのホイールの回転数はホイールが回転をはじめた時より約15～20分間で約200～300回転上昇します。これはベルト・ベアリングなどが使用開始時よりあたたまり負荷が軽くなる為で異常ではありません。試投時よりボールの速度が上がります。

⑮ マシーンの使用が終了したら、速度調整用バーニアダイヤルⒶ・Ⓑを必ず「0」に戻してから電源スイッチをOFFにしてください。

※スイッチを切ってもホイール（回転物）はすぐには止まりませんので完全にホイール（回転物）が静止するまでは触れないでください。

⑯ プラグをコンセントより抜き、アースを外します。

⑰ ホイールが完全に止まってから、ブレーキをはずしマシーンを移動してください。
大人2人以上で転倒しないように注意して移動させてください。(移動の時にはシュート筒を持たないようにしてください。シュートが曲がりコントロールが悪くなります。)

マシーン及び防球ネットの活用例

例１　マシーンを使用して打撃練習をする場合。

⚠ マシーンを操作する人（オペレーター）は、マシーンで打席方向からの打球が見にくい為、**マスク・ヘルメット・プロテクター・レガーズなどの防具を必ず着用**してください。
また、**マシーン投球者用保護ネット（オペレーター用ネット）も必ず使用**してください。

⚠ **マシーンを使用して打撃練習をする場合は、キャッチャーは絶対に付けないでください。**
キャッチャーが他に気をとられている時に、投球すると大変危険です。

安全ゾーン
ボールキャリア
ボールキャリア
防球ネット
ボールキャリア
防球ネット
安全ゾーン
コーチ
防球ネット
ボールキャリア　マシーン投球者用保護ネット（オペレーター用ネット）
マシーンを操作する人
コーチ
安全ゾーン
打撃投手
マシーン　マシーン
防球ネット
投手ネット
マシーン前ネット
バッター
打撃ケージ
打撃ケージ
ティーバッティング用ネット
打撃ケージ
ティーバッティング用ネット

ボールについて

⃠ マシーンに表示されているボール以外は使用しないでください。ボールのスピードが変わり、コントロールが定まらなかったり、ボールの種類によってはホイールの損傷にもつながり大変危険です。

硬式仕様について

Ａ一般硬式ボール（社会人・大学・高校・シニア・リトル用）

Ｂマシーン用ボール（ケブラー系使用球・コルク芯ボール）

Ｃウレタンボール

Ａ・Ｂについては………糸切れ・革切れ・革の浮いているもの・水を含んで重いものなどは使用しないでください。
コントロールが悪くなり、ホイールの損傷の原因になります。また新しいボールと古いボールを混同しての使用もしないでください。

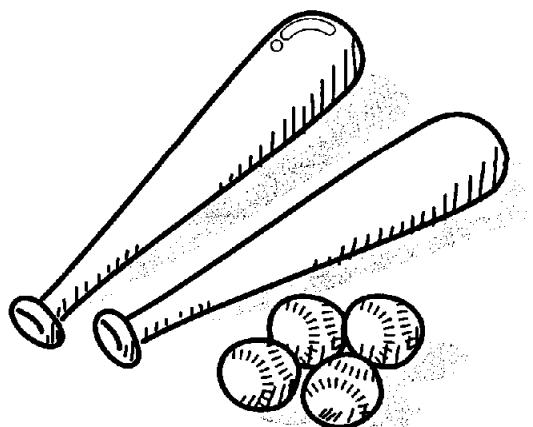
Ｃについては……………ウレタンボールを使用しますと、ボールのウレタンがホイールに付着し、ホイールのボール接触面が盛り上がってきて、コントロールが悪くなりますので注意してください。

(!) マシーンに使用するボールは、同じメーカー及び同程度の使用頻度のものを使用してください。また、上記Ａ～Ｃのように、種類の異なったボールをまぜて使用はしないでください。（コントロールが悪くなります。）

⃠ 濡れたボールは、ホイールとボールがスリップしコントロールが悪くなりますので使用しないでください。

よりよいコントロールを得る為に

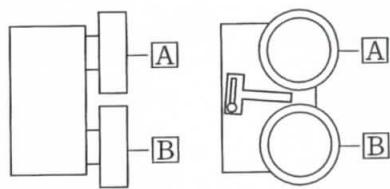
マシーンのシュートにボールを投入する時、縫い目の位置が一定になるように投入してください。

ボールは同じメーカー及び、同程度の使用頻度のものを使用してください。
新しいボールと古いボールを混同して使用しないでください。

ボールについて

軟式仕様について

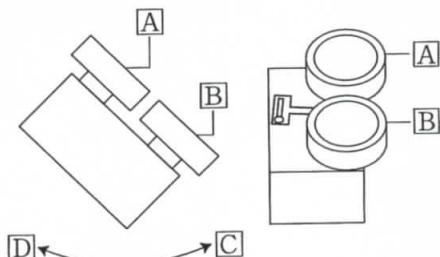
- 軟式用ホイールは接触面を多くし、スリップを少なくすることによりコントロールが良くなりました。
- このマシーンの軟式用については、マシーン本体に貼付しているシール（A・B・C号）に表示されているボール以外は使用しないでください。
- 軟球を使用する場合は、同じメーカー及び減り方が同程度の使用頻度のものを使用してください。新しいボールと古いボールをまぜて使用しますと、コントロールが悪くなります。
- 軟式使用時の最高速度は、約 120km/h です。（ボールメーカーによって若干差があります。）

よりよいコントロールを得る為に

- ボールは、同程度の使用頻度のものを使用してください。新しいボールと古いボールをまぜて使用しないでください。
  また、各ボールメーカーにより**ボールの硬さが異なります**ので、必ず同じメーカーで同じ号数のボールを使用してください。
- 濡れたボールは、ホイールとボールがスリップしコントロールが悪くなりますので使用しないでください。
- 擦り減ってきて、すべりやすくなったボールは、変化球での使用時にはボールの変化が少なくなります。

色々なボールの出し方

●各球種の下の表は、標準の目安にしてください。

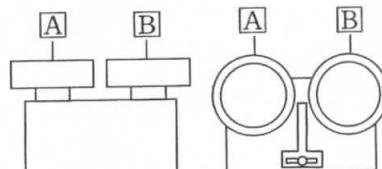
ストレートボール（右バッター用）

- Aのホイールを低速、Bのホイールを高速にします。
- AとBの回転の差が大きい程ボールはよくのびます。

	例	バーニアダイヤルA	バーニアダイヤルB	回転差	球速
硬式	1	65	85	20	100
	2	70	90	20	110
	3	75	95	20	120
	4	85	100	15	130

	例	バーニアダイヤルA	バーニアダイヤルB	回転差	球速
軟式	1	65	85	15	90
	2	70	90	20	100
	3	75	95	20	110
	4	85	100	20	120

◆速度調整用バーニアダイヤルA・Bの差と速度は、上記の表を目安にしてください。
◆商品・ボール・入力電圧により、数字通りにならない場合があります。

右から左に浮き上がりながら、曲がるボール（下手投げの右投手のスライダー）

- Aのホイールを低速、Bのホイールを高速にします。
- AとBのホイールの回転の差が大きい程ボールはよく変化（曲がる）します。
- マシーン本体を、Cの方向に傾けて行くと、ボールは、浮き上がる力が少なくなり右から左に曲がる力が大きくなります。

	例	バーニアダイヤルA	バーニアダイヤルB	回転差	球速
硬式	1	50	80	30	80
	2	55	85	30	90
	3	55	85	30	100
	4	70	95	25	110

	例	バーニアダイヤルA	バーニアダイヤルB	回転差	球速
軟式	1	45	85	40	80
	2	50	90	40	90
	3	60	90	30	100
	4	70	100	30	110

◆速度調整用バーニアダイヤルA・Bの差と速度は、上記の表を目安にしてください。
◆商品・ボール・入力電圧により、数字通りにならない場合があります。

右から左に曲がるスライダー

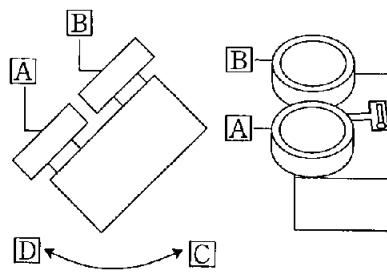
- Aのホイールを低速、Bのホイールを高速にします。
- AとBのホイールの回転が大きい程ボールはよく変化（曲がる）します。

	例	バーニアダイヤルA	バーニアダイヤルB	回転差	球速
硬式	1	55	75	20	100
	2	60	80	20	110
	3	65	85	20	120
	4	70	90	15	130

	例	バーニアダイヤルA	バーニアダイヤルB	回転差	球速
軟式	1	50	85	35	90
	2	55	90	35	100
	3	60	95	35	110
	4	70	100	30	120

◆速度調整用バーニアダイヤルA・Bの差と速度は、上記の表を目安にしてください。
◆商品・ボール・入力電圧により、数字通りにならない場合があります。

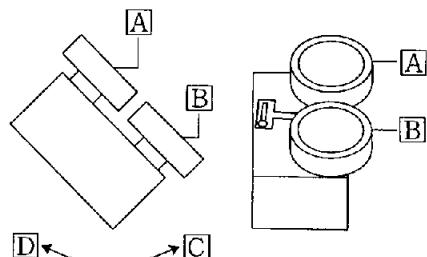
色々なボールの出し方

●各球種の下の表は、標準の目安にしてください。

カーブボール

- [A]のホイールを低速、[B]のホイールを高速にし、本体の傾きを30°～45°にします。右から左に曲がりながら落ちるボールが出ます。
- [A]と[B]のホイールの回転の差が大きい程ボールはよく変化します。
- 本体を[C]の方向に傾けていくと曲がりは小さくなり、タテによく落ちるボールが出ます。

- 本体を[D]の方向に傾けていくとボールはあまり落ちなくなり、ボールは大きく曲がるようになります。

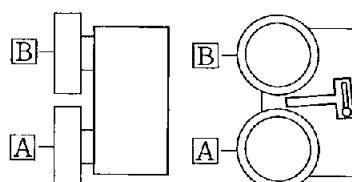
	例	バーニアダイヤル[A]	バーニアダイヤル[B]	回転差	球速
硬式	1	45	85	40	80
	2	55	80	25	90
	3	60	85	25	100
	4	65	95	30	110

	例	バーニアダイヤル[A]	バーニアダイヤル[B]	回転差	球速
軟式	1	50	85	35	80
	2	55	90	35	90
	3	65	95	30	100
	4	70	100	30	110

◆速度調整用バーニアダイヤル[A]・[B]の差と速度は、上記の表を目安にしてください。
◆商品・ボール・入力電圧により、数字通りにならない場合があります。

タテに落ちるボール(ドロップボール)・左バッター用

- マシーン本体を垂直にして、[A]のホイールを高速、[B]のホイールを低速にすると、タテに落ちるカーブボール(ドロップボール)が出ます。
- [A]と[B]の回転の差が大きい程ボールはよく落ちます。

	例	バーニアダイヤル[A]	バーニアダイヤル[B]	回転差	球速
硬式	1	55	65	10	80
	2	60	75	15	90
	3	60	80	20	100
	4	65	90	25	110

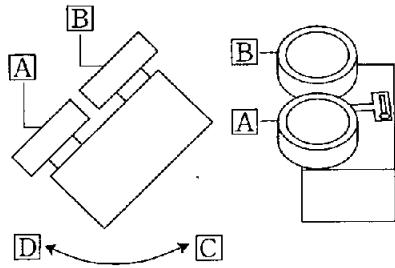
	例	バーニアダイヤル[A]	バーニアダイヤル[B]	回転差	球速
軟式	1	60	75	15	80
	2	65	80	15	90
	3	70	85	15	100
	4	70	90	20	110

◆速度調整用バーニアダイヤル[A]・[B]の差と速度は、上記の表を目安にしてください。
◆商品・ボール・入力電圧により、数字通りにならない場合があります。

ストレートボール・(左バッター用)

- マシーン本体を垂直にし、[A]のホイールを高速、[B]のホイールを低速にします。
- [A]と[B]のホイールの回転の差が大きい程ボールはよくのびます。

	例	バーニアダイヤル[A]	バーニアダイヤル[B]	回転差	球速
硬式	1	85	65	20	100
	2	90	70	20	110
	3	95	75	20	120
	4	100	85	15	130

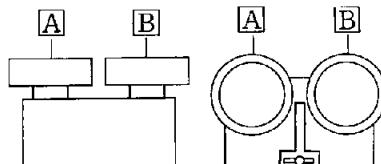
	例	バーニアダイヤル[A]	バーニアダイヤル[B]	回転差	球速
軟式	1	80	65	15	90
	2	90	70	20	100
	3	95	75	20	110
	4	100	85	15	120

◆速度調整用バーニアダイヤル[A]・[B]の差と速度は、上記の表を目安にしてください。
◆商品・ボール・入力電圧により、数字通りにならない場合があります。

色々なボールの出し方

●各球種の下の表は、標準の目安にしてください。

左から右に浮き上がりながら曲がるボール（下手投げの左投手のスライダー）

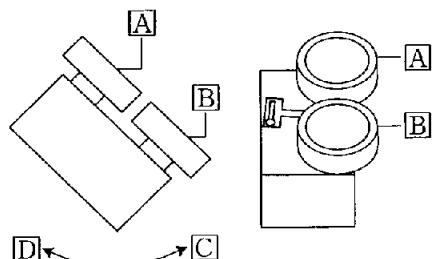
- Aのホイールを高速、Bのホイールを低速にします。
- AとBのホイールの回転の差が大きい程ボールはよく変化します。
- マシーン本体をDの方向に傾けるとボールは大きく曲がり、Cの方向に傾けると、曲がりは小さくなり、ボールはよくのびるようになります。

	例	バーニアダイヤルA	バーニアダイヤルB	回転差	球速
硬式	1	80	50	30	80
	2	85	55	30	90
	3	90	55	35	100
	4	95	70	25	110

	例	バーニアダイヤルA	バーニアダイヤルB	回転差	球速
軟式	1	85	45	40	80
	2	90	50	40	90
	3	90	60	30	100
	4	100	70	30	110

◆速度調整用バーニアダイヤルA・Bの差と速度は、上記の表を目安にしてください。
◆商品・ボール・入力電圧により、数字通りにならない場合があります。

左から右に曲がるボール（スライダー）

- Aのホイールを高速、Bのホイールを低速にします。
- AとBのホイールの回転差が大きい程よく曲がります。

	例	バーニアダイヤルA	バーニアダイヤルB	回転差	球速
硬式	1	75	55	20	80
	2	80	60	20	90
	3	85	65	20	100
	4	90	70	20	110

	例	バーニアダイヤルA	バーニアダイヤルB	回転差	球速
軟式	1	85	50	35	80
	2	90	55	35	90
	3	95	60	35	100
	4	100	70	30	110

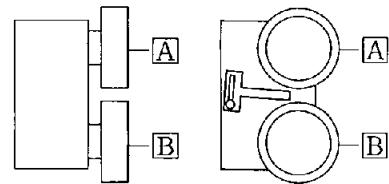
◆速度調整用バーニアダイヤルA・Bの差と速度は、上記の表を目安にしてください。
◆商品・ボール・入力電圧により、数字通りにならない場合があります。

シュートボール（左から右に落ちながら曲がるボール）

- Aのホイールを高速、Bのホイールを低速にします。
- AとBのホイールの回転差が大きい程ボールはよく落ちます。
- 本体をCの方向に傾けていく程ボールは大きく曲がります。
- 本体をDの方向に傾けていく程ボールはよく落ちます。

	例	バーニアダイヤルA	バーニアダイヤルB	回転差	球速
硬式	1	80	50	30	80
	2	85	55	30	90
	3	90	55	35	100
	4	95	70	25	110

	例	バーニアダイヤルA	バーニアダイヤルB	回転差	球速
軟式	1	85	45	40	80
	2	90	50	40	90
	3	90	60	30	100
	4	100	70	30	110

◆速度調整用バーニアダイヤルA・Bの差と速度は、上記の表を目安にしてください。
◆商品・ボール・入力電圧により、数字通りにならない場合があります。

色々なボールの出し方

●各球種の下の表は、標準の目安にしてください。

タテに落ちるカーブ(ドロップ)・右バッター用

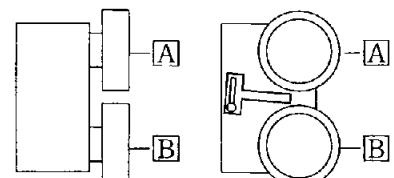
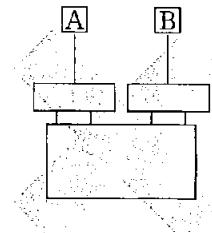
Ⓐのホイールを高速、Ⓑのホイールを低速にします。

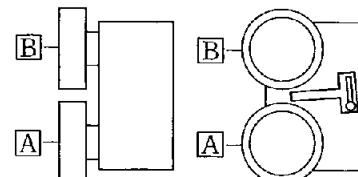
ⒶとⒷのホイールの回転差が大きい程ボールは極端に落ちます。

	例	バーニアダイヤルⒶ	バーニアダイヤルⒷ	回転差	球速
硬式	1	65	55	10	80
	2	75	60	15	90
	3	80	60	20	100
	4	90	65	25	110

	例	バーニアダイヤルⒶ	バーニアダイヤルⒷ	回転差	球速
軟式	1	75	60	15	80
	2	80	65	15	90
	3	85	70	15	100
	4	90	70	20	110

◆速度調整用バーニアダイヤルⒶ・Ⓑの差と速度は、上記の表を目安にしてください。
◆商品・ボール・入力電圧により、数字通りにならない場合があります。

ナックルボール・フォークボール

右図【図－1】もしくは【図－2】どちらでも結構です。
(【図－1】は右バッター用【図－2】は左バッター用)

ⒶとⒷのホイールの回転を同速回転にします。

ボールスピードを少し速くしてやれば、ナックルボール(風に微妙に作用されて、上下左右にゆれながらの無回転ボール)が出ます。

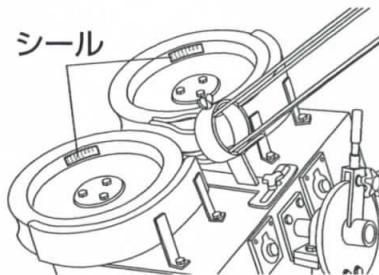
【図－1】

ナックルボールより少しボールスピードを落としてやると、フォークボール(キャッチャーの手前でストンと落ちる無回転のボール)になります。
但し、風の影響を受けて、落ちない場合があります。

※ナックルボール・フォークボールは無回転の為に、風に微妙に左右され同じ球種でも、まったく同じ箇所へは投球されません。

【図－2】

	例	バーニアダイヤルⒶ	バーニアダイヤルⒷ	回転差	球速
硬式	1	70	70	0	80
	2	75	75	0	90
	3	85	85	0	110

	例	バーニアダイヤルⒶ	バーニアダイヤルⒷ	回転差	球速
軟式	1	65	65	0	80
	2	70	70	0	90
	3	75	75	0	100

◆速度調整用バーニアダイヤルⒶ・Ⓑの差と速度は、上記の表を目安にしてください。
◆商品・ボール・入力電圧により、数字通りにならない場合があります。

各部の点検及び調整方法 ※マシーンをよく理解された方が行ってください。

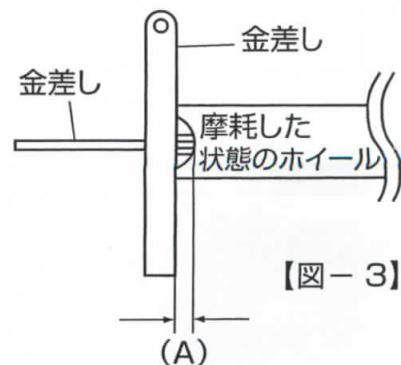
ホイールについて

ホイールの**使用期限は３年**です。ご購入日より３年経過したホイールは必ず交換してください。ご購入日はホイールの内側に貼付しているシールに表記しておりますのでご確認ください。ホイールは保管状況・使用頻度により寿命は変化いたします。

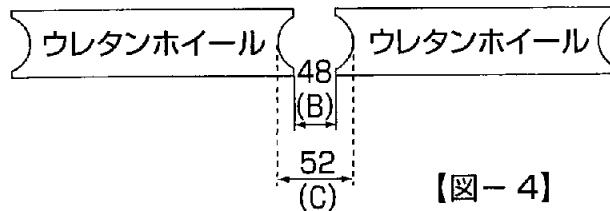
ホイールのゴム・ウレタンは日々劣化していきます。その為アルミ部とゴム、ウレタンとの接着強度も落ちていきます。古くなり劣化したホイール（ヒビ割れ・弾力性が劣るなどの症状が見うけられるホイール）は高速回転させると遠心力によりゴム・ウレタンが欠けて飛び大変危険ですので絶対に使用しないでください。

マシーンは屋内で湿気やほこりの少ない場所に保管し、石灰と同じ場所には保管しないでください。石灰は空気中の水分を集めると同時に強いアルカリ性でホイールの表面を溶かし寿命を縮める大きな原因になります。またマシーンには、石灰の付いたボールは、絶対に使用しないでください。ホイールに石灰が付着し寿命を縮める原因となります。ホイールは保管状況・使用頻度により寿命は変化いたします。

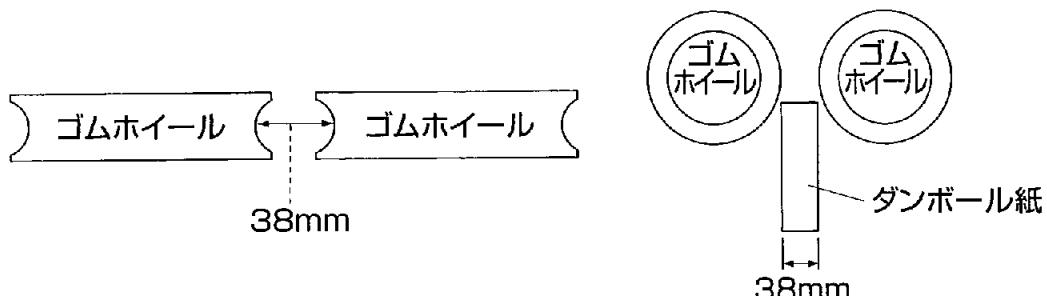
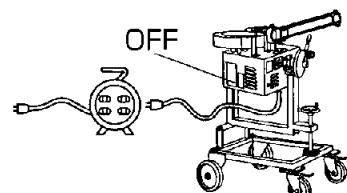
マシーン使用前には、マシーン本体（ホイール）に異常がないか点検してください。ホイールは高速回転しますので、ハガレ、キズ、裂け目などの有無や、アルミ部にヒビ割れ、ブレがないか確認してください。

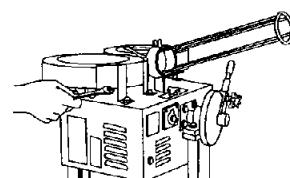
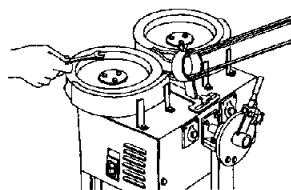
ホイール間隔の調整について

マシーンを使用しだして年月がたち、コントロールが悪くなってきた。

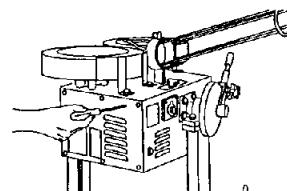
原因　ホイールが摩耗して、ボールをはさむ力が減少し、スリップしている。

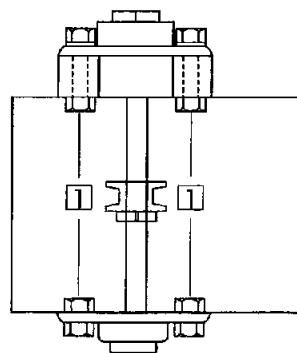
処置　ホイールの間隔を減っている分だけ縮めます。

方法　ホイールの減りを測ってください。

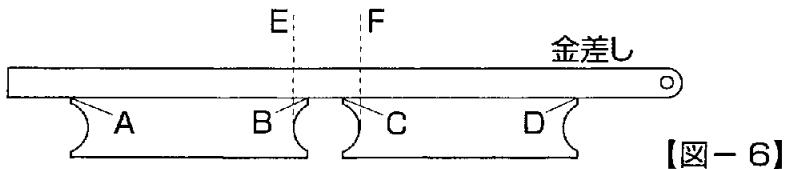
1. スイッチをOFFにして、完全にホイールが静止した事を確認し、マシーンのリード線をコンセントから外してください。
2. 金差しを２本用意してください。
3. 【図-3】の要領で（A）の寸法を測ります。（両方のホイール共）
4. 【図-3】で両方のホイール共に（A）の寸法が2mmずつあったとしますと、合計4mm摩耗している事になります。ホイールの間隔は摩耗していない状態で52mmですから、【図-4】の（B）の間隔を48mmに調整すると（C）のボールをはさみ込む所（1番ホイールの減っている所）が52mmになります。

【図－３】

※軟式用は一番ひろい所で 38mm にしてください。

計測方法：ダンボール紙を 38mm に切りホイールの中央部に入れ計測してください。

調整方法：硬式用と同じ方法です。

ホイールの間隔調整方法

①スイッチを OFF にして、完全にホイールが静止した事を確認し、マシーンのリード線をコンセントから外してください。

②マシーン本体を水平にし、ホイールカバーの 3 箇所のボルトを緩めて外し、ホイールカバーを取り外します。

③ホイールの 3 箇所のボルトを緩めて外し、ホイールを取り外します。

④マシーン本体の両サイドのビスを緩めて外し、本体カバーを取り外します。
　スイッチがついている本体カバーは配線がつながっている為外れません。

各部の点検及び調整方法 ※マシーンをよく理解された方が行ってください。

⑤ベアリングについているボルト・ナットを緩めます。1つのベアリングに4箇所。合計16箇所緩めます。
ボルト・ナットの両方をスパナで緩めます。

⑥図５の矢印の方向に上下のベアリングを移動させます。

【図－５】

⑦ホイールをのせて間隔を測ります。間隔が正常値で有れば、ベアリングを仮止めし、ホイールの上に１mの金差しを乗せ、図６のように差しが一直線になるようにします。

例　Aの箇所で差しとホイールとの間に隙間が出来れば、下側のベアリングが矢印方向に行き過ぎていることになります。

【図－６】

※図６のA・B・C・Dが一直線になっていないとホイールが上下にずれていて、ボールのコントロールが悪くなります。
一直線になっていたら、仮止めしたベアリングを本締めしてください。

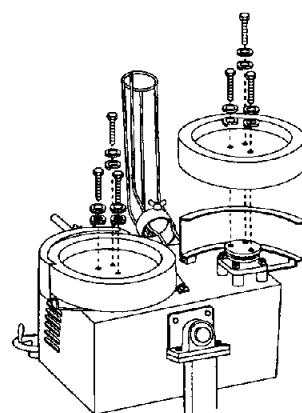
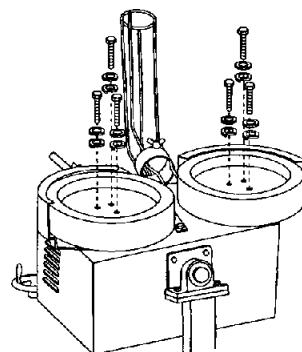
⑧ホイールのボルト３箇所を締め付けます。

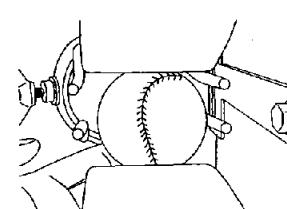
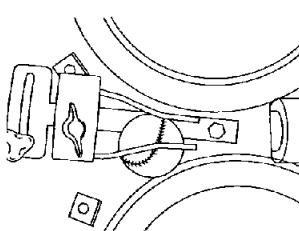
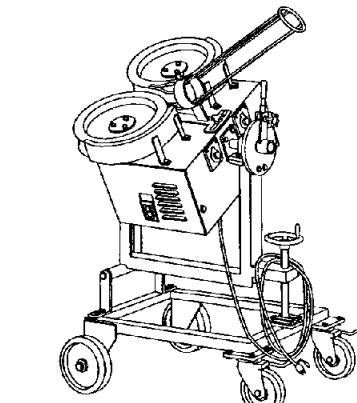
⑨ホイールカバーを取り付けます。

⑩マシーン本体の両サイドの本体カバーを取り付けます。

- **5mm 以上ホイールが磨耗している場合は、一度ホイール研磨をすることをお勧めします。**
- **ホイール研磨をする場合は、最寄の販売店に依頼してください。また、ホイール研磨後も上記の調整を行ってください。**
- **ホイールを研磨しますと、ホイールの直径が小さくなる分だけ、最高球速も若干落ちます。**
- **半年から１年ごとに左右のホイールを入れ替えますと、ホイールの片減りが防げます。**

※ご購入日より３年経過したホイールは研磨できません。

⑪ホイールの間隔調整が終わりましたら、シュート調整を必ず行ってください。「シュート調整の方法」（P. 22 ～ 23）を参照してください。

※ボルトはしっかり締め付け、締め忘れのないように注意してください。

各部の点検及び調整方法 ※マシーンをよく理解された方が行ってください。

ホイールの交換方法

①スイッチをOFFにして、完全にホイールが静止した事を確認し、マシーンのリード線をコンセントから外してください。

②M８スパナ（スパナサイズ13）でホイールをとめている３箇所のボルトを緩めて取り外します。

③ホイールを両手で持ち上げて、ホイール軸より取り外します。

④新しいホイールをホイール軸の上におき、ホイールの穴とホイール軸のネジ穴を合わせます。

⑤ボルトをいれてスパナでしっかりと締め付けます。

⑥ホイールの間隔を確認します。広がっていたり、狭くなっていたらホイールの間隔調整を行ってください。「ホイール間隔の調整について」（P. 19～21）を参照してください。

⑦シュート先の調整を行います。「シュート調整の方法」（P. 22～23）を参照してください。
※ボルトはしっかり締め付け、締め忘れのないように注意してください。

シュート調整の方法

①スイッチをOFFにして、完全にホイールが静止した事を確認し、マシーンのリード線をコンセントから外してください。

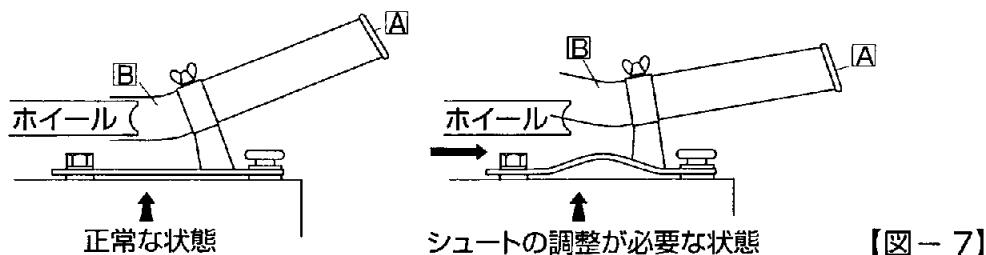
②マシーンを右ピッチャーのストレートの状態にします。

③ボールを一球シュート先に入れ、下側のシュート先２本と下側のホイールでボールが止まっているようにします。

④ボールを少し押し上げ、上側のホイールと接触するようにしてボールが上下のホイールの中央にくるようにします。

⑤下側のシュート先２本とボールとの間隔が均等になるようにします。

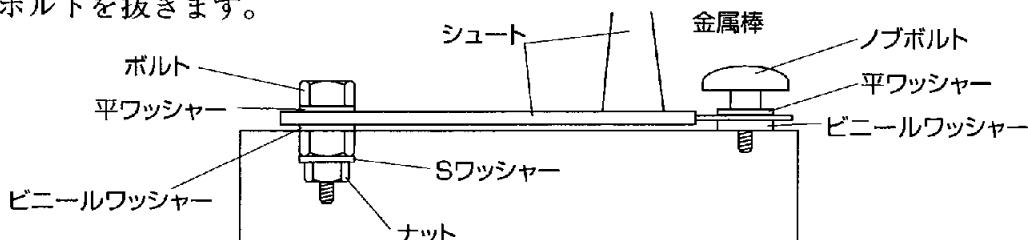
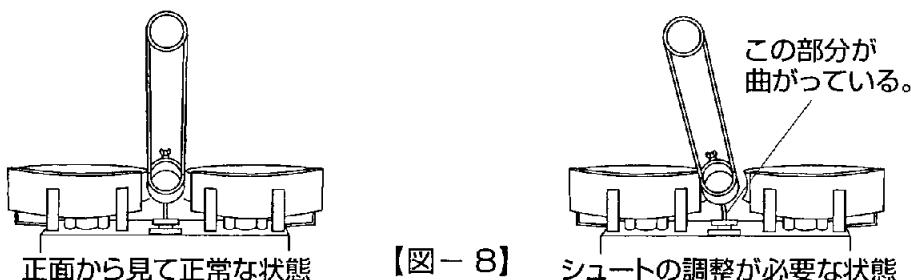
⑥シュートの角度を移動させ、シュート先がホイールに当たらないことを確認します。

⑦マシーンを左ピッチャーのストレートの状態にし、同様に調整します。

各部の点検及び調整方法 ※マシーンをよく理解された方が行ってください。

シュートの調整について　下記のようになっている場合は、必ず調整してください。

ホイール上部のみが減る。

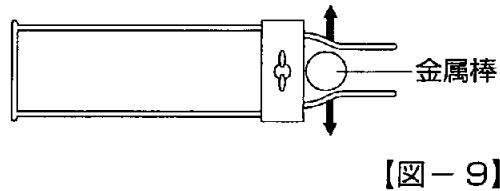
原　因　シュート筒[A]を持って、マシーンを移動させた為に、⬆の箇所が曲がりシュート先[B]部分が上にあがっている。【図-7】

【図－7】

処　置　シュート先[B]を取り外し⬆の箇所をまっすぐに直します。
又は、シュート先[B]を取り替えます。（シュート先[B]は有料です。）
ホイールがすでに擦り減っている場合は、研磨が必要です。

方　法　[1]スイッチをOFFにして、完全にホイールが静止した事を確認し、マシーンのリード線をコンセントから外してください。
[2]スイッチが付いていない方の本体カバーを外します。
[3]ナットを外します。
[4]ボルトを抜きます。

シュート
金属棒
ノブボルト
ボルト
平ワッシャー
平ワッシャー
ビニールワッシャー
Sワッシャー
ビニールワッシャー
ナット

左右のホイールの減りかたが異なる。（一方のホイールのみ減る）

原　因　マシーンの片側から力がかかり、シュート先が曲がっている。【図-8】

【図－8】

処　置　シュート先をまっすぐに直します。

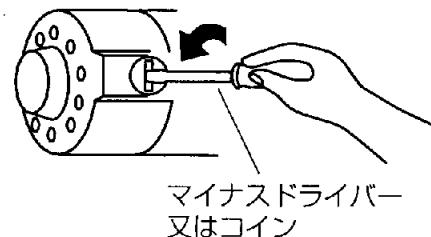
方　法　[1]スイッチをOFFにして、完全にホイールが静止した事を確認し、マシーンのリード線をコンセントから外してください。
[2]金属棒をシュートに差し込み、力がかかってきている方向に傾けていきます。【図-9】

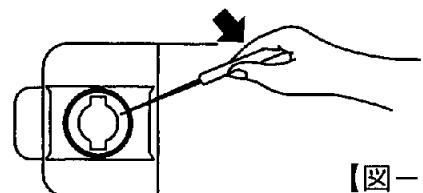
【図－9】

モーターのカーボンブラシ点検及び交換方法

◎マシーンを使用開始後6ヶ月経過しましたら、モーターのカーボンブラシを点検してください。6ヶ月経過後からは、6ヶ月毎に点検し、カーボンブラシが減っている時は、早めに交換してください。(使用頻度により消耗の仕方が異なります。)

> ⓘ モーターのカーボンブラシを規定量以上使用すると、モーターのカーボン接触面に傷が入り、新しいカーボンブラシと取り替えても、短時間で消耗してしまうようになりますので、点検は必ず定期的に行ってください。(この場合モーター交換となります。)〈有料〉
> ※マシーン本体に、使用開始日を記入しておくと便利です。

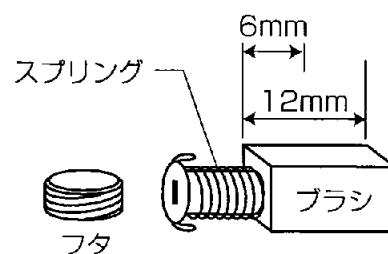
◎点検及び交換

1 スイッチをOFFにして、完全にホイールが静止した事を確認し、マシーンのリード線をコンセントから外してください。

2 モーターのおしり部分のカーボンブラシ取換口(プラスチック製の黒キャップ)が2カ所、左右のモーターで合計4カ所有ります。

3 プラスチック製のキャップをマイナスのドライバーで左側に回すとキャップが外れます。【図-10】

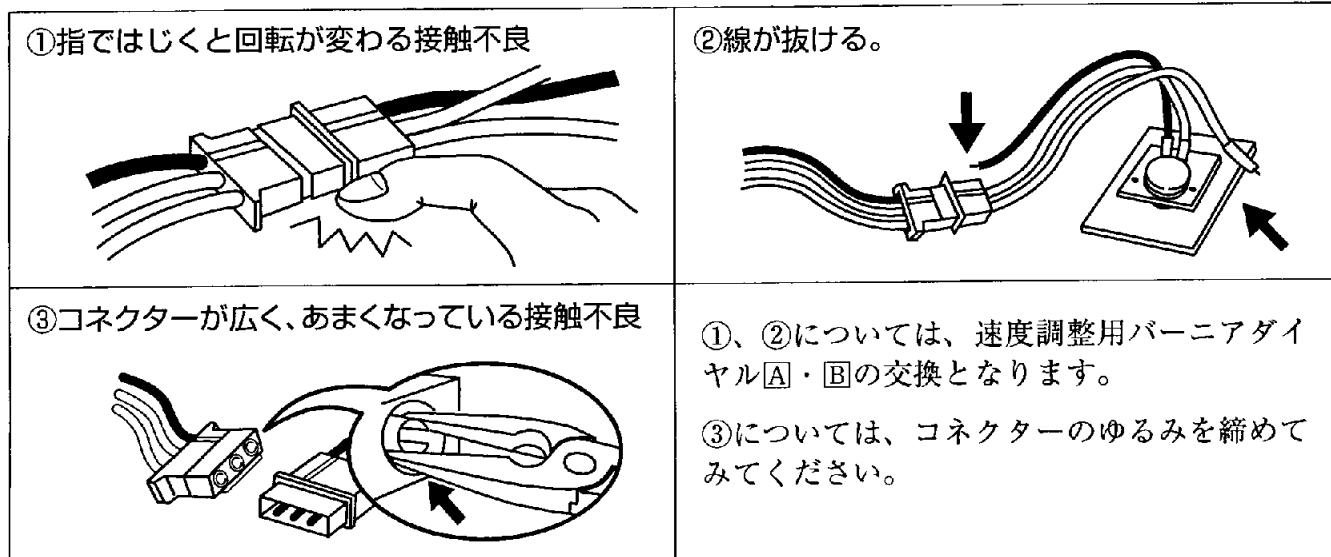
※この時、プラスチック製のキャップを割らないように、注意してください。

4 キャップが外れましたら、先のとがったもので【図-11】のように、矢印の方向に引き出すと、中からカーボンブラシが出てきます。(周囲のプラスチックを割らないように、注意してください。)

【図－10】

【図－11】

◎モーターのカーボンブラシは、新品で12mmあります。これが約半分(6mm)になりましたら交換してください。【図-12】

◎モーターのカーボンブラシの点検・交換は、1台のモーターに2カ所あります。また、左右モーターとも同時に行ってください。

【図－12】

> モーターのカーボンブラシは、販売店にお申し付けください。この場合は有料になります。

各部の点検及び調整方法 ※マシーンをよく理解された方が行ってください。

速度調整用バーニアダイヤル🄰・🄱の点検及び交換方法

◎ホイールの回転が急激に変化(上がったり、下がったり)したり、ダイヤルの目盛が0で動き出したり、ダイヤルを回しても動かないときは、速度調整用バーニアダイヤル🄰・🄱を点検してください。

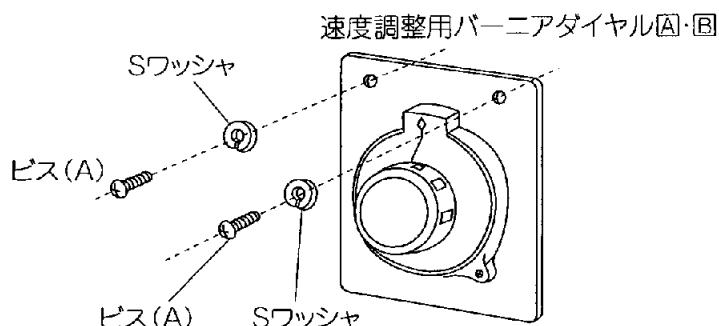
①指ではじくと回転が変わる接触不良

②線が抜ける。

③コネクターが広く、あまくなっている接触不良

①、②については、速度調整用バーニアダイヤル🄰・🄱の交換となります。

③については、コネクターのゆるみを締めてみてください。

①～③の処置をしても直らない場合は他の部分の故障だと考えられます。工場での修理・点検〈有料〉が必要となります。

◎速度調整用バーニアダイヤル🄰・🄱の交換

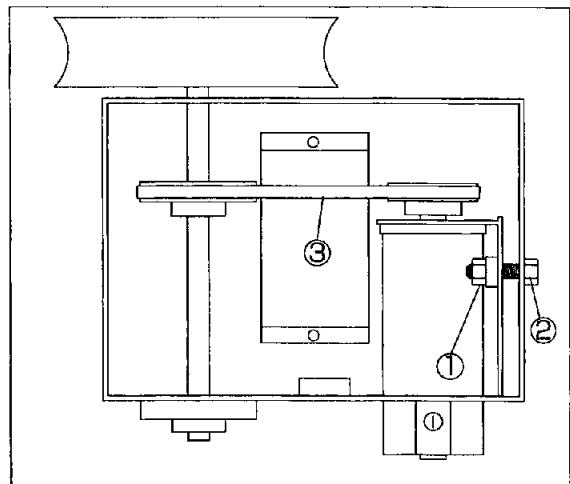
マシーンのリード線プラグはコンセントから抜き取ってください。
マシーンの電源スイッチは切ってください。
速度調整用バーニアダイヤル🄰・🄱の目盛は0にしてください。

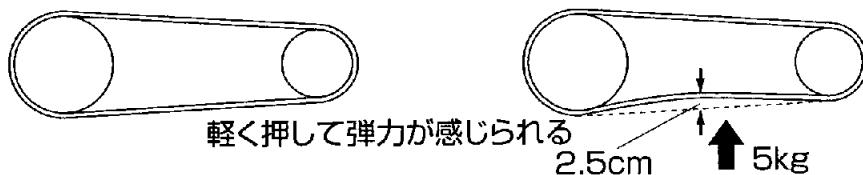
[1]スイッチをOFFにして、完全にホイールが静止した事を確認し、マシーンのリード線をコンセントから外してください。

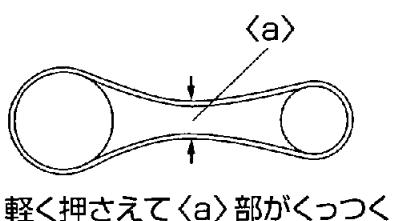
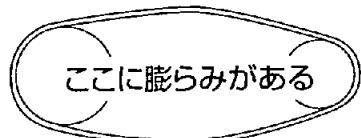
[2]本体カバーを取り外します。

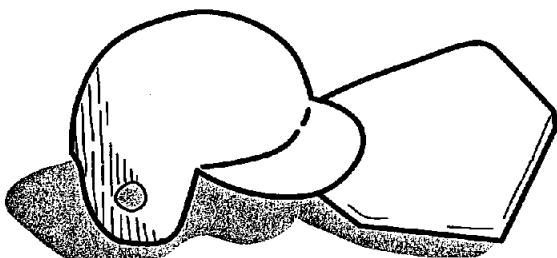
[3]速度調整用バーニアダイヤル🄰・🄱を取付けてある(A)のビスを2本抜き取ってください。

[4]コネクター部を抜き、新しい速度調整用バーニアダイヤル🄰・🄱と取り替え、ビスを締めます。

[5]本体カバーを取り付けます。

各部の点検及び調整方法 ※マシーンをよく理解された方が行ってください。

ベルトの張り方

1. スイッチを OFF にして、完全にホイールが静止した事を確認し、マシーンのリード線をコンセントから外してください。
2. 本体カバーを取り外します。
3. ①のナットをゆるめます。
4. ②のボルトを右に回すと、③のベルトが張れます。

> (!) この時に、ベルトが直線的になり、軽く押して弾力が感じられる程度に張ってください。
> ベルトを張りすぎると、モーターに負担がかかり故障することがありますので注意してください。

5. ①のナットを締め付け、本体カバーを取り付けてください。

正常な状態

ベルトがゆるんでいる状態

軽く押さえて〈a〉部がくっつく

上から見た図

トラブルシューティング

故障と思う前に確認していただきたいこと

※マシーンに異常が発生したら使用しないでください

発電機を使用……速度が出ない

原　因　発電機の容量不足が考えられます。

調　査　マシーンを家庭用電源で使用してみてください。

処　置　1.8kw 以上の容量の商品を使用してください。

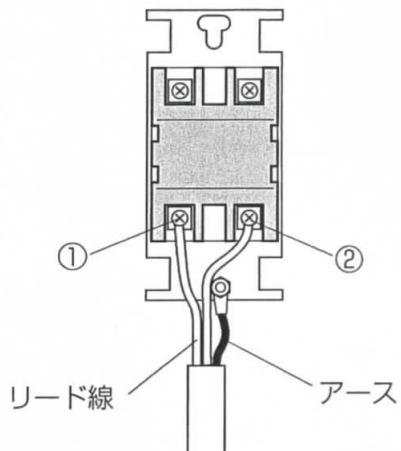
マシーンのスイッチを入れても（片方、又は両方とも）作動しない

原　因　1コードリールの不良、もしくは電源のブレーカーが落ちている。

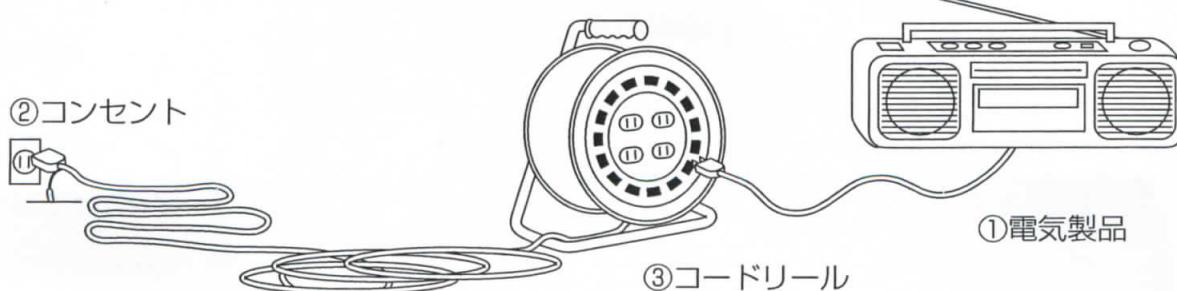
2発電機の故障、もしくは発電機のブレーカー（ヒューズ）が切れている。

3マシーンのモーターのカーボンブラシが消耗、もしくはカーボンブラシ部での接触不良。

4マシーンのリード線の断線。

5コントローラーの内部破損（接触不良）。
が考えられます。

調　査　1については、テスターを使って調べるか、【図-13】のようにしてチェックしてください。

2については、発電機のブレーカー（ヒューズ）を点検してください。

方　法　3については、モーターのカーボンブラシを両側とも一度取り出し、入れなおしてください。「モーターのカーボンブラシ点検及び交換方法」(P. 24)参照してください。

調　査　4については、【図-14】の①、②にテスターをあて、電気がとどいているか調べてください。

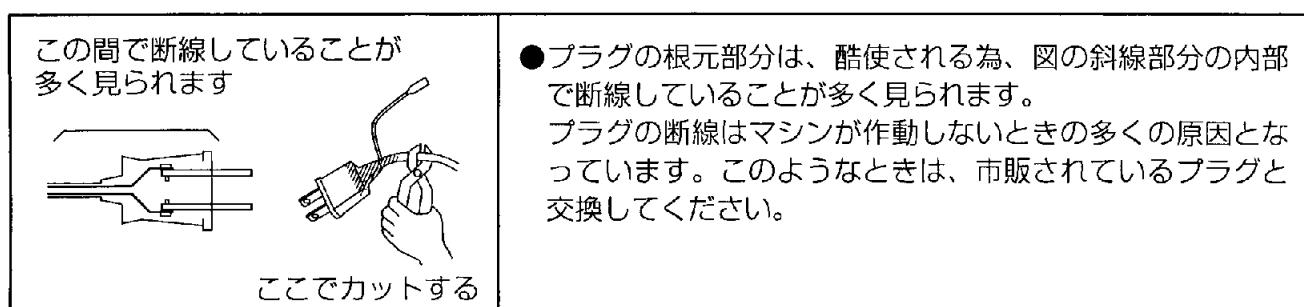
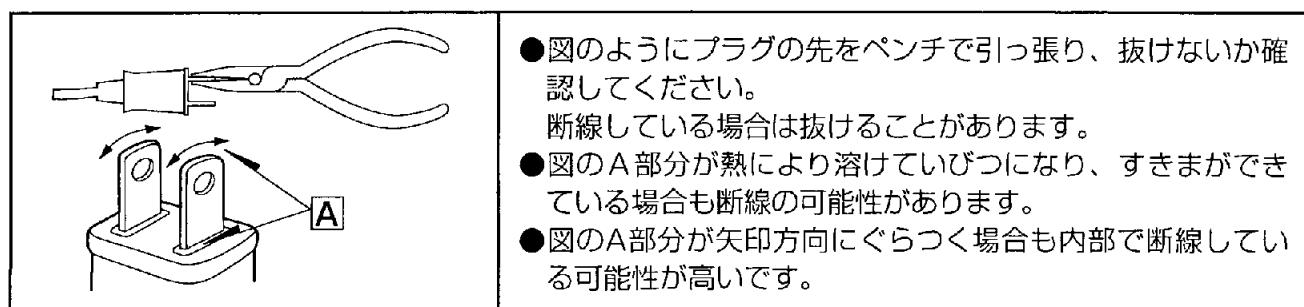
処　置　1～4以外の場合は、販売店にお申し付けください。

【図－14】

①はコンセントからは作動するが、①と②のコンセント間に、③コードリールを使うと作動しない。この場合は③コードリールの故障です。
【図－13】

トラブルシューティング

故障と思う前に確認していただきたいこと

スイッチがONの状態でホイールが回転したり、しなかったりする

原　因　1モーターのカーボンブラシがきっちり入っていない。

2差し込みプラグ自体の接触不良。

調　査　1については、モーターのカーボンブラシを2カ所とも一度取り出し、入れ直してください。「モーターのカーボンブラシ点検及び交換方法」(P. 24)参照してください。

2については、下図のように修理してください。

●図のようにプラグの先をペンチで引っ張り、抜けないか確認してください。
断線している場合は抜けることがあります。
●図のA部分が熱により溶けていびつになり、すきまができている場合も断線の可能性があります。
●図のA部分が矢印方向にぐらつく場合も内部で断線している可能性が高いです。

●プラグの根元部分は、酷使される為、図の斜線部分の内部で断線していることが多く見られます。
プラグの断線はマシンが作動しないときの多くの原因となっています。このようなときは、市販されているプラグと交換してください。

新しいボールを使用してもコントロールが悪く、スピードが不安定で、ボールがホームベースまで届かなかったりすることがある。

原　因　1ホイールの使用期限が過ぎている。

2ホイールにハガレ・キズ・裂け目などの有無やアルミ部にヒビ割れ・ブレがある。

3ホイールが摩耗して、ホイールとホイールの間隔が広くなり、ボールがスリップしている。

4ボールの種類などを替えている。

5コントロールが安定しない時は、ベルトがのびて、プーリーとの間でスリップしていることがあります。

処　置　1・2については、「ホイールの交換方法」(P. 22)を参照し交換してください。

3については、「ホイールの交換方法」(P. 22)、もしくは「ホイール間隔の調整方法」(P. 19～21)を参照し調整してください。

4については、「ボールについて」(P. 13～14)の項を再度確認してください。

5については、「ベルトの張り方」(P. 26)を参照してください。

トラブルシューティング

故障と思う前に確認していただきたいこと

スイッチを入れるとブレーカーが落ちる。

原　因　[1]ブレーカーに 20A 以下のヒューズを使用している。

[2]マシーンの速度調整用バーニアダイヤル[A]・[B]が高速になっている。

[3]同じブレーカーから、複数の電気製品を使用している。

処　置　[1] 20A 以上のヒューズと、取り替えてください。

[2]マシーンの速度調整用バーニアダイヤル[A]・[B]を 0 の位置にしてスイッチを入れ、ゆっくりとダイヤルをあげてください。

[3]「マシーン使用前に確認していただきたいこと」(P.6) を確認してください。

モーターの廻っている音はするが、ホイールが回転しない。

原　因　[1]ベルトが外れている。

[2]ベルトが切れている。

[3]ベルトを張りすぎた為によるモーターの故障などが考えられます。

調　査　[1]・[2]の場合共、マシーン本体の横板を外して調べてください。

処　置　[2]の場合については、ベルトの取換え（工場修理）〈有料〉になります。

[3]についてはモーターの取り替え（工場修理）〈有料〉になります。

マシーン使用時に変な音がする。

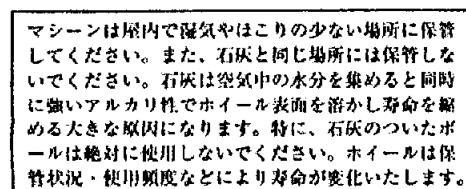
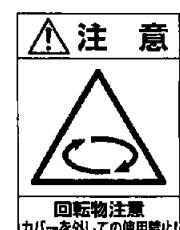
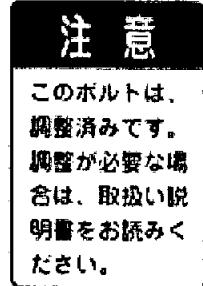
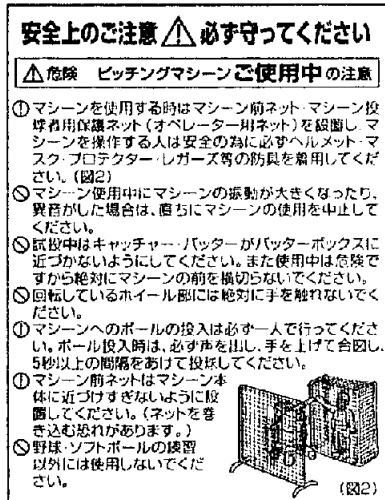
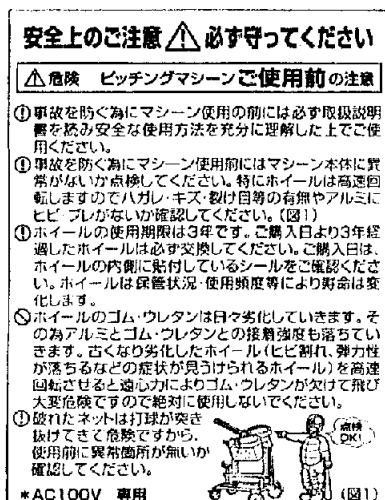
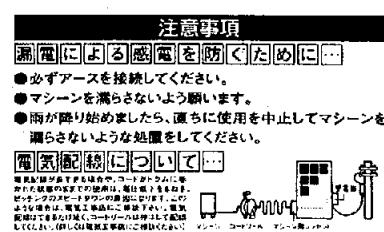
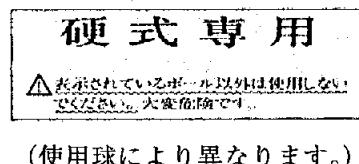
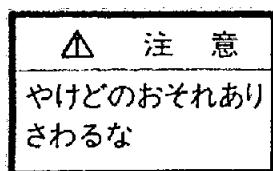
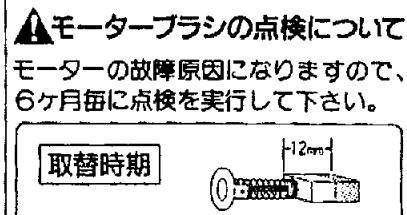
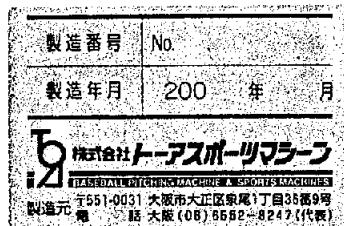
原　因　[1]ホイールが劣化し、ゴム・ウレタンにハガレ・キズ・裂け目などができている。

[2]ホイール軸のベアリングが悪くなっている。

[3]ベルトがゆるんでいる為に音がする。

調　査　[1]マシーンの使用をやめ、ホイールにハガレ・キズ・裂け目などがないか確認する。

[2]ホイールを片方ずつゆっくり回転させ、左右どちらから音が出ているかを確認してください。

[3]マシーンの本体カバーをはずし、ベルトの張りを確認する。

処　置　[1]については「ホイールの交換方法」(P. 22) を参照し交換してください。

[2]についてはベアリングの取り替え（工場修理）〈有料〉になります。

[3]については、「ベルトの張り方」(P. 26) を参照し調整してください。

警告シールについて（一覧）

⚠ 注 意

やけどのおそれあり
さわるな

硬 式 専 用

⚠ 表示されているボール以外は使用しないでください。大変危険です。

（使用球により異なります。）

注意事項

漏電による感電を防ぐために…

- 必ずアースを接続してください。
- マシーンを濡らさないよう願います。
- 雨が降り始めましたら、直ちに使用を中止してマシーンを濡らさないような処置をしてください。

安全上のご注意 ⚠ 必ず守ってください

⚠危険　ピッチングマシーン**ご使用前**の注意

① 事故を防ぐ為にマシーン使用の前には必ず取扱説明書を読み安全な使用方法を充分に理解した上でご使用ください。
① 事故を防ぐ為にマシーン使用前にはマシーン本体に異常がないか点検してください。特にホイールは高速回転しますのでハガレ・キズ・裂け目等の有無やアルミにヒビ・ブレがないか確認してください。（図1）
① ホイールの使用期限は3年です。ご購入日より3年経過したホイールは必ず交換してください。ご購入日は、ホイールの内側に貼付しているシールをご確認ください。ホイールは保管状況・使用頻度等により寿命は変化します。
⊘ ホイールのゴム・ウレタンは日々劣化していきます。その為アルミとゴム・ウレタンとの接着強度も落ちていきます。古くなり劣化したホイール（ヒビ割れ、弾力性が落ちるなどの症状が見うけられるホイール）を高速回転させると遠心力によりゴム・ウレタンが欠けて飛び大変危険ですので絶対に使用しないでください。
① 破れたネットは打球が突き抜けてきて危険ですから、使用前に異常箇所が無いか確認してください。

点検OK!

＊AC100V　専用　（図1）

安全上のご注意 ⚠ 必ず守ってください

⚠危険　ピッチングマシーン**ご使用中**の注意

① マシーンを使用する時はマシーン前ネット・マシーン投球者用保護ネット（オペレーター用ネット）を設置し、マシーンを操作する人は安全の為に必ずヘルメット・マスク・プロテクター・レガーズ等の防具を着用してください。（図2）
⊘ マシーン使用中にマシーンの振動が大きくなったり、異音がした場合は、直ちにマシーンの使用を中止してください。
⊘ 試投中はキャッチャー・バッターがバッターボックスに近づかないようにしてください。また使用中は危険ですから絶対にマシーンの前を横切らないでください。
⊘ 回転しているホイール部には絶対に手を触れないでください。
① マシーンへのボールの投入は必ず一人で行ってください。ボール投入時は、必ず声を出し、手を上げて合図し、5秒以上の間隔をあけて投球してください。
① マシーン前ネットはマシーン本体に近づけすぎないように設置してください。（ネットを巻き込む恐れがあります。）
⊘ 野球・ソフトボールの練習以外には使用しないでください。

（図2）

注 意

このボルトは、調整済みです。調整が必要な場合は、取扱い説明書をお読みください。

マシーンは屋内で湿気やほこりの少ない場所に保管してください。また、石灰と同じ場所には保管しないでください。石灰は空気中の水分を集めると同時に強いアルカリ性でホイール表面を溶かし寿命を縮める大きな原因になります。特に、石灰のついたボールは絶対に使用しないでください。ホイールは保管状況・使用頻度などにより寿命が変化いたします。

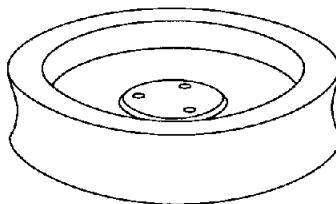
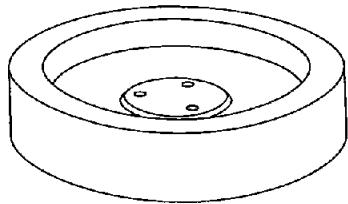
このホイールの使用期限は3年です。ご購入日より3年経過したホイールは必ず交換してください。

ご購入日　　年　　月　　日

マシーン本体に貼ってあるシールがはがれたり、消えたりした場合は、すぐに販売店に連絡してください。無償にて送付致します。
また、ここに掲載されているシールは、実物大とは異なりますので予めご了承ください。

仕　様

ピッチング速度	用途分類Aのボール　MAX130km/h 用途分類Bのボール　MAX120km/h
用途分類	A…………硬式仕様 B…………軟式（A・B・C）仕様
使用電源	AC100V, 50/60Hz
電動機	DCモーター177W×2台
定格電流	3.4A×2　計6.8A
寸法	たて78cm×よこ72cm×高さ138cm
投球口高さ	88～105cm
本体総質量	約86kg
付属品	マシーンカバー

消耗部品について

下記部品は消耗部品となっておりますので、交換が必要となっております。

●ホイール　1本（メーカー希望小売価格　¥50,000）

ホイールの使用期限は3年です。ご購入日より3年経過したホイールは必ず交換してください。

硬式用（ウレタンホイール）

軟式用（ゴムホイール）

●カーボンブラシ　1ケ（メーカー希望小売価格　¥1,000）

※モーター1台につきカーボンブラシ2ケ使用。

アフターサービスについて

このコンパクトカーブマシーンには保証書を別途添付してあります。

⑭保証書について

保証書は販売店でお渡ししますから、必ず「販売店名、購入日」などの記入をお確かめになり、保証書内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

⑭修理を依頼されるとき

● 保証期間中は
保証期間中に修理をお受けになる場合は、恐れ入りますがお買い上げの販売店にご相談ください。
※保証期間中でも、有料修理になる場合がありますので、保証書をよくお読みください。

● 保証期間を過ぎているときは
まずお買い上げの販売店にご相談ください。
修理により、商品の機能が維持できる場合には、ご要望により有料で修理いたします。

⑭サービスをご依頼される前に

この説明書をよくお読みいただき、再度ご点検の上、なお異常がある場合は、お買い上げの販売店にご依頼ください。
その際、製品番号（商品名）、および品番、故障内容を詳しくお申し付けください。

⑭操作及び取り扱いミスによるマシーンの故障・損傷は保証外になりますのでご注意ください。

⑭ホイールの（再製）修理に関しては行っておりません。

⑭巻き直しをしたホイールは危険ですので使用しないでください。

⑭弊社指定部品以外の部品を使用しないでください。

工場定期点検について

⑭ピッチングマシーンは使用開始後、2～3年経過毎に必ず工場定期点検〈有料〉が必要となっております。

工場定期点検では未然に故障・事故の発生を防止し、常に良い状態で安全にご使用いただく為に各部品の点検・調整を行います。

工場定期点検は工場到着後約10日間（実働）で完了いたします。別途部品交換〈有料〉が必要な場合は最大約14日（実働）が追加で必要になります。（時期によっては異なる場合があります。）

※商品のご持参、お持ち帰りの交通費、また、送付される場合の送料、梱包費、その他の諸掛り費用はお客様のご負担となります。（適切な梱包の上、ご送付ください。）ご返送の場合も同様にお客様のご負担となります。
ご不明な点がございましたら、ご購入された販売店様にご相談ください。

☆商品の仕様は予告なく変更・改良する場合がありますので、あらかじめご了承願います。